目　　次

特別展について …… 1

市民との協働によるプロジェクト形式の調査活動 …… 2

第3回国際メタセコイアシンポジウムの開催 …… 5

調査研究事業 …… 9

資料収集保管事業 …… 19

展覧事業 …… 28

普及教育事業 …… 34

広報事業 …… 44

刊行物 …… 47

連携(ネットワーク) …… 48

庶務 …… 49

特別展について

館長　山西良平

大阪市立自然史博物館で開催している特別展には、当館の自主企画による主催展と新聞社等が企画する巡回形式の誘致展とがある。従来は主催展を年１回だけ開催していたが、平成13年に「花と緑と自然の情報センター」にネイチャーホールが開設されたのを機に誘致展も積極的に開催している。誘致展は、常設展や主催展では応えきれない多様な市民のニーズに対応し、これまで興味を持ってもらえなかった市民層の来館の契機としても重要である。さらに比較的小規模な特別陳列も随時開催している。

主催展は大阪周辺における地域の自然を調査し、資料を収集してその成果を人々に紹介する地域自然誌型（近年は平成22年度の特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」のように市民参加型調査を伴う手法も開発されている）、博物館が誇る収蔵資料を公開するコレクション公開型、最新の自然史に関する科学の進歩を学芸員の研究成果もまじえて展示する研究紹介型などのタイプに分かれるであろう。いずれにしても館の活動のメインテーマである「人間と自然」と関連づけながら、日常的な資料収集と調査研究によって蓄積された館蔵品と研究成果の紹介の場となっている。また、図録は特別展解説書として、それぞれの地域やテーマに関するすぐれた普及書となっており、開催の後も販売を継続しているのが大きな特長のひとつである。

このような主催展は学術研究の進歩や研究成果を普及することが目的のひとつであるという性格上、これまでは、題材設定、タイトル立案、構成・展開などはすべて学芸員が行ってきた。しかし、学芸員だけでは資料の見せ方や展開構成など、演出面では限界があるため、結果的に資料や内容を生かし切れていなかった面がある。今後は一般市民としての広い視点を持つコーディネーター的な人材を企画の初期段階から交え、展示内容・手法の練り上げなど、すべての作業を行っていく必要があるであろう。

また、特別展実施に対する評価をいかに測るかが課題である。入館者数だけがバロメータでないことは言うまでもないが、公立博物館として実施する意義、教育効果、独自性、市民・入館者のニーズ・理解・満足度など、実施に対する幅広い評価の基準づくりが求められ、それらに乗っ取った実施計画と予算配分が求められていくことになる。平成22年度、当館の指定管理者である財団法人大阪市博物館協会によって、傘下各館の特別展に対する事業評価が行なわれた。当館では「みんなでつくる淀川大図鑑」が評価対象となったが、そのプロセス、評価委員から出された意見および評価結果は今後の改善にとってきわめて有意義なものであった。評価結果は同協会のウェブサイトで公開されている（http://www.ocmo.jp/third-partyevaluation.html）。

市民との協働によるプロジェクト形式の調査活動

自然史博物館では、市民との協働による自然環境調査を行ってきた。例えば1983年に始められたアサギマダラの渡り調査など、このような市民参加型調査活動では当館は長い歴史を持つ。

特に2002年からは、テーマと期間を定めて分野横断的に複数の学芸員が関わるプロジェクト形式の調査を行っている。2002年から2006年までは大和川水系の、2007年から2010年までは淀川水系の自然環境調査を、友の会会員を中心とする市民と共に行った。本項ではこの調査プロジェクトと、当館のミッションとしての位置づけについて概説する。

旭区城北ワンドの調査（2007年７月21日）

プロジェクト形式の調査とは

プロジェクト形式の調査では、まず地理的な調査対象範囲が決められる。これは各プロジェクトの主テーマと大きな関わりがある。２回のプロジェクトではそれぞれ川の水系が範囲となった。

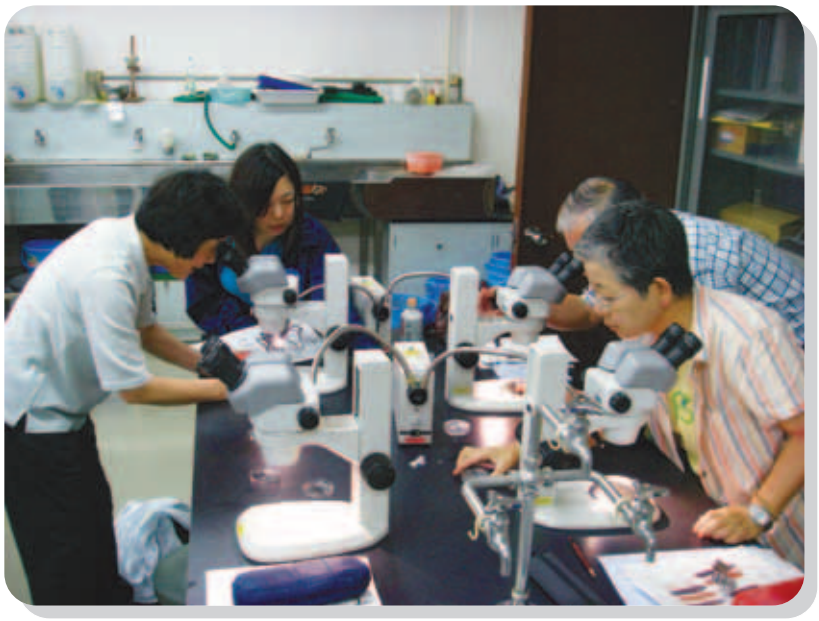
柱となる調査項目は生物の分布である。これは地域の自然環境を把握するための重要な指標の一つが生物の分布である、という考えに基づいている。また、生物の分布調査は自然観察や採集活動に直結しており、自然史に関心の高い市民が興味を持って参加しやすい、というメリットもある。

中間発表（2008年４月19日）

２回の調査プロジェクトを通じて、以下のような基本スタイルが確立した。

調査メンバーと班構成

- 各学芸員が、担当分野の調査対象ごとに調査班を作る（例：植物班、甲虫班、カブトエビ班等）。参加者は調査班ごとに活動する。班への参加は一つだけでも、掛け持ちでもよい。
- 調査プロジェクトへの参加は登録制とする。各登録者には、すべての班の調査研修や調査会等の日程が掲載されたニュースレターが定期的に送られる。登録者はそれを参照して希望する班の調査に参加する。



プラナリア班の室内研修（2008年６月29日）

調査の流れ

調査は以下の流れで進められる。

1．調査研修：班で集まり、対象とする生き物の採集、標本作成、同定方法などを学ぶ。
2．調査：調査地域を参加者に割り当て、決められた方法・期間に従って各自で分布調査を行う。
3．解析・まとめ：必要に応じて期間後に班で集まり、採集した標本を合同で同定したり、データの集約を行う。

※班によっては各自の単独調査ではなく、調査会を設定して班全体で調査をする場合もある。

標本の収集

・原則として、分布調査は標本採集を必須とする。市民参加型調査は調査精度の維持が成功のカギを握っている。標本によって同定精度を確保するとともに、博物館の収蔵資料を充実させることにつなげる。

成果の発表

・調査プロジェクトの最終年度に、調査対象をテーマとした特別展を開催し、調査プロジェクトの成果発表を行う。参加者には特別展という明確な目標ができるとともに、特別展の制作に携わる機会が得られる。

奥猪名合宿（2009年５月31日）

調査プロジェクトは４つの柱をリンクする

調査プロジェクトでの重要なポイントは、博物館活動の４つの柱である「調査研究」「資料収集」「展示」「普及教育」のすべてをリンクさせ、実現しているということにある。日本の博物館では学芸員が４つの柱を背負い、それぞれにかけるエフォートのやりくりに大変な苦労をしている。もちろん当館もその例外ではないが、このようなプロジェクト形式の調査活動を展開することによって、４つの柱それぞれに大きな収穫が得られることになった。淀川水系調査「プロジェクトＹ」では、217名の市民が登録して調査に参加し、関連行事として開催した普及教育

行事への参加者数は2007〜09年度でのべ2,000名を超える。期間を通じて収集した標本は総数で約11,000点に達した。調査に関連した学会発表は24編で、論文・印刷物は32編となっている(2010年11月現在)。得られた成果は今年度夏に開催した第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑〜山と海をつなぐ生物多様性〜」展として結実した。特別展の概要については、本報の特別展のページ、ならびに展示解説書を参照されたい。

三川合流点での甲虫班のライトトラップ調査（2009年７月22日）

もとより、このような調査プロジェクトは博物館単独で成し得るものではない。身近な自然を調べてみたい、という意欲を持ち、博物館活動に理解を示す市民の存在があってこそ成り立つ。その中核として、友の会が位置づけられることは言うまでもない。また、淀川水系調査「プロジェクトＹ」及び特別展の開催に対しては、文部科学省科学研究費補助金（平成20〜22年度基盤研究Ｃ「市民参加による淀川水系生物環境総合調査とその博物館学的意義」課題番号：20605021)、及び日本財団等から総額で約3,000万円の資金的な支援を得たことも付記しておく。

当館では引き続き、調査プロジェクトを事業の一つとして位置づけ、評価と改良を重ねながら今後も展開していきたいと考えている。

貝班の調査（2009年10月10日）

展示作成会（2010年７月11日）

第３回 国際メタセコイアシンポジウムの開催

3 rd International *Metasequoia* Symposium

メタセコイア属は1941年に三木茂博士（1901～1974、京都大学、後に大阪市立大学・武庫川女子大学）により、日本の新生代の植物化石をもとに設立された新属の植物である。その後1945年に中国四川省（現在は湖北省）で生きているメタセコイアが発見され、生きている化石として話題となった。

三木茂博士が化石をもとにメタセコイア属を設立してから、2010年で70周年を迎えた。メタセコイア発見70周年を記念して世界のメタセコイア研究者が集う第３回国際メタセコイアシンポジウムが2010年８月３日～８日に、大阪市立自然史博物館で開催された。

第１回国際メタセコイアシンポジウムは、現生種が発見された国・中国で、第２回はメタセコイアの種子から苗を作り、世界に配布した国・アメリカで、そして、第３回はメタセコイアを化石として初めて発見した三木博士の国・日本で開催されることになったのである。

植物化石研究者が数多く所属する日本植生史学会に第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会が組織され、日本での開催地を検討し、開催地はメタセコイア化石の発見者である三木茂博士の収集した植物化石を所蔵している大阪市立自然史博物館で行われることになった。実行委員会は、鈴木三男氏（東北大学植物園）を委員長とし、塚腰　実（大阪市立自然史博物館）が副委員長となり、その他12人の実行委員で組織した。また、助成団体、協賛および共催団体の協力を得て運営するとともに、多くの個人から寄付をいただいた。

メタセコイアシンポジウム実行委員会では、国際シンポジウムを開催するだけでなく、三木博士の業績を市民の方に知ってもらうために、講演会と記念展示を行った。また、三木博士が化石で観察した事を市民の方に理解してもらうために、野外観察会、学習チラシの作成・配布を行った。

参加者がナガスクジラの下に集合

シンポジウムおよび関連行事の内容

全体の日程

7月24日～10月31日：特別陳列「三木博士の収集したメタセコイア化石と水草標本」
7月24日　野外観察会・メタセコイアの見学会
8月1日　市民向け講演会・観察会
「メタセコイアと地球環境の歴史」百原新氏（千葉大学准教授）
「メタセコイアの観察会」長居植物園に復元された第三紀植物群を観察
8月3日　開会式・ポスター発表
8月4日　シンポジウム・ポスター発表
8月5日　シンポジウム・ポスター発表・閉会式
8月6日～8日：メタセコイアの化石産地見学・現地討論会

シンポジウム参加者

60人（国内31人、国外29人）
参加国数：10カ国（日本、ハンガリー、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、韓国、中国、タイ、台湾）

シンポジウム

発表件数：口頭発表26件、ポスター発表16件

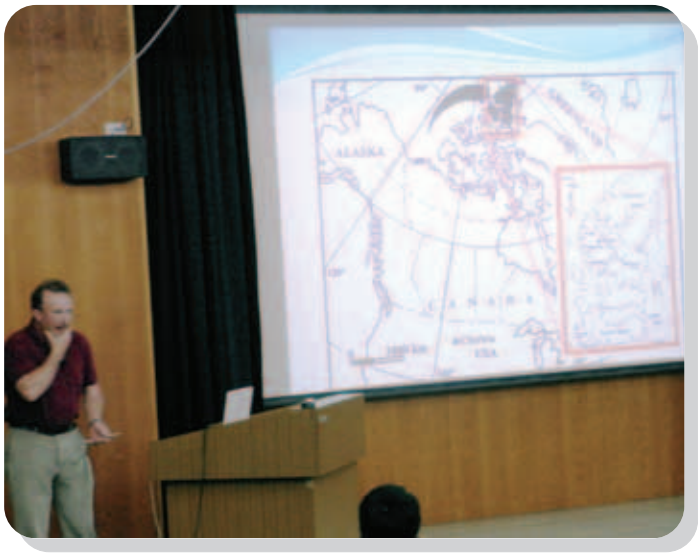
テーマ：

1）新生代のメタセコイアおよび関係した球果類
2）Taxodioxylon とスギ科化石材の歴史
3）スギ科化石林
4）スギ科植物の生物学
5）スギ科植物の保護と持続可能な利用
6）ポスター発表：メタセコイアおよび関係した球果類についてのポスター発表。8月3日～5日の間、博物館内に掲示し、一般来館者に公開した。

メタセコイアの化石産地見学・現地討論会

参加者：40人
8月6日(金)：大阪発、琵琶湖博物館、古琵琶湖層群鮮新世化石林、岐阜市着。
8月7日(土)：木曽川前期中新世化石林、多治見市の粘土鉱山（土岐口陶土層）、瑞浪市化石博物館、赤沢（木曾）着。
8月8日(日)：ヒノキおよび他のヒノキ科植物の天然林（赤沢）、大阪着。

ポスター発表



シンポジウム

メタセコイアの化石産地見学会（岐阜県多治見市の粘土鉱山）

記念展示　特別陳列「三木博士の収集したメタセコイア化石と水草標本」

会　期：７月24日(土)～10月31日(日)
会　場：大阪市立自然史博物館　イベントスペース
内　容：大阪市立自然史博物館に所蔵している三木茂博士の研究したメタセコイアの化石標本と水草標本を公開した。国際メタセコイアシンポジウム実行委員会としては、９月20日までの開催計画であったが、好評につき、自然史博物館として、10月31日まで会期を延長した。
共　催：大阪市立自然史博物館、第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会、水草研究会

特別陳列「三木博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」

記念講演会「メタセコイアと地球環境の歴史」

日　時：７月31日(土)　午後１時30分～３時
会　場：大阪市立自然史博物館　講堂
講　師：百原　新氏（千葉大学園芸学部准教授）
参加者：64名
内　容：中国のメタセコイア、メタセコイア化石の産出状況、消滅の原因などについて幅広く講演。

メタセコイア見学会（大阪市立大学理学部附属植物園で1950年に導入されたメタセコイアを観察）

野外観察会　メタセコイアの見学会

月　日：７月24日(土)
参加者：24名
内　容：大阪市立大学理学部附属植物園でメタセコイア・セコイア・ヌマスギを比較しながら観察した。その後、滋賀県湖南市みなくち子どもの森自然館にて、古琵琶湖層群産のメタセコイアを始めとする植物化石の観察、湖南市の野洲川河床にて古琵琶湖層群のメタセコイア化石林と球果・枝化石の観察を行った。

長居植物園のメタセコイア観察会

メタセコイアの学習リーフレット

長居植物園のメタセコイア観察会

月　日：７月31日(土)
場　所：長居植物園
日　時
第１回：７月31日(土)　午前10時30分～11時30分
参加者：26名
第２回：７月31日(土)　午後３時30分～４時30分
参加者：22名
内　容：長居植物園に復元されている第三紀植物群にて、植物の葉序、ヌマスギ、メタセコイア、セコイアの識別点を観察し、三木博士がメタセコイアの化石を発見したポイントについて解説した。

メタセコイアの観察リーフレットの作成

メタセコイア学習リーフレットを10000枚を印刷し、記念展示の観覧者、講演会・観察会の参加者に配布した。また、全国の博物館、植物園、大学に配布した。

報告書の出版

日本植生史学会発行の学会誌である「植生史研究　第19巻第１－２号」は、第３回国際メタセコイアシンポジウムの論文集「*Metasequoia*: The Legacy of Dr. Shigeru Miki」として2011年４月に出版される予定である。

助成団体

社団法人　東京倶楽部、財団法人　国際花と緑の博覧会協会、独立行政法人　日本万国博覧会記念機構

主催団体

第３回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会、日本植生史学会、東北大学植物園、大阪市立自然史博物館、大阪市立大学理学研究科、日本地質学会近畿支部、琵琶湖博物館、瑞浪市化石博物館、大阪市立長居植物園、みなくち子どもの森　自然館

三木博士は大阪市立自然史博物館の前身である大阪市立自然科学博物館の後援会の会員であり、友の会の前身である大阪自然科学研究会会長や当館の普及行事の講師をつとめるなど、当館の活動に深く関わっていただいた。また、三木博士が収集した植物化石標本、植物標本（水草標本）は、ご遺志により当館に寄贈され、36000点に及ぶ。それらの中にはメタセコイア属設立の基礎になった標本や水草の新種の模式標本が含まれる。三木博士によるメタセコイア属の設立70周年の年に、三木博士の収集標本を収蔵している大阪市立自然史博物館で、第３回国際メタセコイアシンポジウムが開催され、世界の研究者が来館し、標本を目の前にして、メタセコイアに関する自然史科学について議論することができた。また、市民向けの行事や配布物を作成し、三木博士の業績や三木博士が研究を通して示した「自然観察の大切さ」を市民に知ってもらうことができた。また、多くの人々がメタセコイアを始めとする植物への関心を深め、自然観察を行ったり植物の歴史を考察する機会となった。

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろう博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、「淀川水系の水質・生物調査」等に学芸課をあげて取り組み、市民と共同の調査活動、「西日本自然史系博物館ネットワークによるGBIF事業」等の博物館連携による調査研究を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、特別展や講演会を通じて市民に普及した。なお、文部科学省科学研究費補助金は基盤研究5件、若手研究2件の補助を受けた。その他の外部資金についても、2件の助成金を受けた。さらに、三木茂博士が化石をもとにメタセコイア属を設立してから、70周年になることを記念して世界のメタセコイア研究者が集う第3回国際メタセコイアシンポジウムを2010年8月3～8日に開催した。

Ⅰ．研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館　長	山西良平（Ryohei YAMANISHI）	
動　物研究室	波戸岡清峰（Kiyotaka HATOOKA）	主任学芸員
	和田　岳（Takeshi WADA）	学芸員
	石田　惣（So ISHIDA）	学芸員
昆　虫研究室	金沢　至（Itaru KANAZAWA）	主任学芸員
	初宿成彦（Shigehiko SHIYAKE）	主任学芸員
	松本吏樹郎（Rikio MATSUMOTO）	学芸員
植　物研究室	佐久間大輔（Daisuke SAKUMA）	学芸員
	内貴章世（Akiyo NAIKI）（～9月末）	学芸員
	志賀　隆（Takashi SHIGA）	学芸員
地　史研究室	樽野博幸（Hiroyuki TARUNO）	学芸課長
	川端清司（Kiyoshi KAWABATA）	学芸課長代理
	塚腰　実（Minoru TSUKAGOSHI）	主任学芸員
第四紀研究室	石井陽子（Yoko ISHII）	学芸員
	中条武司（Takeshi NAKAJO）	学芸員

平成22年9月30日現在

Ⅱ．研究テーマ

■山西良平（館長）

(1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
(2) 日本の干潟の多毛類フォーナの調査研究
(3) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究

■波戸岡清峰（動物研究室）

(1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
(2) 大阪湾周辺海域の魚類相の調査
(3) 淀川水系の魚類相の調査

■和田　岳（動物研究室）

(1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
(2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
(3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
(4) 淀川水系の鳥類・両生爬虫類・哺乳類の分布についての研究
(5) 大阪府下の哺乳類の分布についての研究
(6) 大阪湾岸の水鳥の生息状況についての研究

■石田　惣（動物研究室）

(1) 軟体動物（イシガイ類、腹足類）の生態学・行動学的研究
(2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
(3) 生物映像のアーカイビングとその活用
(4) 淀川水系の無脊椎動物相と分布
(5) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相

■金沢　至（昆虫研究室）

(1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
(2) アサギマダラなどの移動昆虫の調査
(3) 昆虫・クモの日周活動性の研究
(4) 近畿地方の蛾類記録の整理

■初宿成彦（昆虫研究室）
(1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
(2) 大阪府および周辺（主に淀川水系）の甲虫類の分布調査
(3) セミに関する研究
(4) ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

■松本吏樹郎（昆虫研究室）
(1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
(2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
(3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■佐久間大輔（植物研究室）
(1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
(2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
(3) 二次林植物群集の研究
(4) 菌類インベントリーの手法と体制
(5) 博物館情報システムの構築

■内貴章世（植物研究室）
(1) アリドオシ属（アカネ科）の分類学的研究および繁殖生態学的研究
(2) 異型花柱性の進化に関する研究
(3) サツマイナモリの集団遺伝学的研究
(4) ルリミノキ属（アカネ科）の分類学的研究および高次倍数化に関する研究

■志賀　隆（植物研究室）
(1) コウホネ属（スイレン科）の分類学的および生物地理学的研究
(2) 植物の雑種形成および雑種種分化に関する研究
(3) 水生植物の保全に関する研究
(4) 水湿地の植物相に関する研究

■樽野博幸（地史研究室）
(1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
(2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
(3) 中国産長鼻類に関する研究
(4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■川端清司（地史研究室）
(1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
(2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
(3) 現生放散虫に関する研究
(4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■塚腰　実（地史研究室）
(1) 新生代古植物相の研究
(2) ヒシ科化石の分類学的研究
(3) ショウガ科果実化石の分類学的研究

■石井陽子（第四紀研究室）
(1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
(2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

■中条武司（第四紀研究室）
(1) 干潟などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
(2) 淀川水系の水質や環境に関する研究
(3) 大阪平野の地下水利用に関する研究

Ⅲ．文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1．当館学芸員が研究代表者となったもの

■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
アカネ科における倍数体の起源および二型花柱性喪失と自殖の進化に関する研究	内貴章世
（4年間継続の3年目）　（課題番号：20770073）	

○4月15日の1日間、大阪府和泉市に出張し、アリドオシ属の倍数性検証のための資料収集を行った。
○5月22日の1日間、大阪府三島郡島本町に出張し、アリドオシ属の倍数性検証のための資料収集を行った。
○6月10－13日の4日間、東京大学理学系研究科附属植物園に出張しアリドオシ属の標本調査を行った。
○6月28－29日の2日間、高知県室戸市、四万十市に出張し、アリドオシ属の倍数性検証のための資料収集を行った。
○7月1－5日の5日間、鹿児島県奄美市、大島郡宇検村、大島郡徳之島町、熊毛郡屋久島町、熊本県球磨郡五木村、熊本市、菊池市に出張し、アリドオシ属の倍数性検証のための資料収集を行った。

■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
水生植物コウホネ属における生育形および異形葉形成の進化的背景	志賀　隆
（3年間継続の3年目）　（課題番号：20770074）	

○9月5日の1日間、栃木県に出張した。

○９月14日～16日の３日間、岐阜県、愛知県、三重県に出張した。
○９月24日～25日の２日間、栃木県に出張し、シモツケコウホネおよびナガレコウホネの調査を行った。
○コウホネ属の野外集団において、環境データと共に、葉長や根茎の伸長など、フェノロジー調査を行った。
○昨度に引き続き、シモツケコウホネとナガレコウホネの野外集団の遺伝的多様性および集団構造を調査した。
○日本植物学会第74回大会において研究成果を発表した（９月９日～11日；春日井市）。
○栃木県立博物館で開催されたシンポジウムにて研究成果を発表した（９月23日；宇都宮市）。
○日本生態学会第58回大会において研究成果を発表した（３月８日～12日；札幌市）。

■基盤研究(C)

研究課題	研究代表者
カサアブラムシの虫こぶを用いたトウヒ属初の古植物学的分類システムの構築	初宿成彦
（３年間継続の２年目）　（課題番号：21570107）	

○国内各地のトウヒ林での野外調査およびアメリカにおいて標本調査を行った。

■基盤研究(C)

研究課題	研究代表者
自然離れ克服のために自然史博物館が地域のコーディネーターとして果たす新たな役割	山西良平
（３年間継続の１年目）（課題番号：226010160001）	

○大阪湾環境再生連絡会が主催する「第３回大阪湾生き物一斉調査」（平成22年５月29日実施）に大阪湾海岸生物研究会と共に参画し、市民団体による調査を博物館の立場でサポートした。

■基盤研究（C）

研究課題	研究代表者	研究分担者
市民参加による淀川水系生物環境総合調査とその博物館学的意義	中条武司	石田　惣 志賀　隆 波戸岡清峰
（３年間継続の３年目）　（課題番号：20605021）		

○淀川の自然環境調査を実施する「プロジェクトＹ」を市民と共に実施した。そして、その成果として、特別展「みんなでつくる淀川大図鑑－山と海をつなぐ生物多様性－」を開催した（２～４、28～31ページ）。

■基盤研究（C）

研究課題	研究代表者
哺乳類等骨格標本作成サークルのネットワーク化と普及教育事業への展開方法の共有化	和田　岳
（３年間継続の２年目）　（課題番号：21601019）	

○ホネの全国ネットワーク「ホネット」を通じて交流した。
○岐阜県において標本作成技術の勉強会を開催し、交流・意見交換を行った。
○他の博物館や学校教育の現場において、ホネの普及教育活動を展開できる「ホネホネ出前セット」の開発についての打合せを行った。

■基盤研究（C）

研究課題	研究代表者
博物館資料を活用した地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的意義	川端清司
（３年間継続の１年目）　（課題番号：22601017）	

○８月20日～22日の３日間、福島大学（福島市）に出張し、地学団体研究会福島大会において研究発表を行った（ポスター発表）。
○９月18日～20日の３日間、富山大学（富山市）に出張し、日本地質学会第117年学術大会において研究発表を行った（口頭発表）。
○12月６日～８日の２日間、長崎県長崎市、熊本県八代市に出張し、地質調査および資料収集を行った。
○水路実験装置を整備した。
○３月12日にジオラボ「断層を調べてみよう」を実施した。

２．当館学芸員が研究協力者となったもの

■若手研究（B）

研究課題	研究代表者	当館協力者
日華植物区系における固有科アオキ科の種分化と系統分類	東馬哲雄（東京大学）	内貴章世
（３年間継続の３年目）　（課題番号：20770063）		

○８月22日～８月27日の６日間 中華民国（台湾）に出張した。
○花蓮県立霧山周辺地域、天祥・緑水周辺地域におい

てアオキ科、トベラ科、アカネ科アリドオシ属などの分布調査を行い、染色体および分子系統解析に必要な資料収集を行った。

○国立台湾大学において、アカネ科アリドオシ属の標本調査を行った。

Ⅳ．財団等の助成を受けて行った研究

■アメリカ合衆国農務省

研究課題	研究代表者
ツガカサアブラムシの天敵の評価と収集	初宿成彦

○国内各地のツガ林で調査を行った。

Ⅴ．海外派遣

■科研費（基盤研究 C）による出張

氏　名：初宿　成彦
日　程：８月15日～26日（12日間）
出張先：アメリカ合衆国テネシー州、バージニア州、コネチカット州
目　的：シンポジウムでの研究発表、針葉樹加害性昆虫の野外調査、標本調査。

■韓国自然保護学会による出張

氏　名：金沢　至
日　程：７月８日～15日（８日間）
出張先：韓国仁川、江原道竜平・星宇、龍門山
目　的：国際シンポジウム・年次大会での発表、アサギマダラのマーキング指導・野外調査。

Ⅵ．著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行の Nature Study 誌は、ns.と略記した。当館学芸員以外の著者には氏名に*を付した。

【館長】

Otani, M.* and R. Yamanishi（2010. 5）Distributuion of the alien species *Hydroides dianthus*（Verrill, 1873）（Polychaeta: Serpulidae）in Osaka Bay, Japan, with comments on the factors limiting its invasion. Plankton & Benthos Research 5（2）: 62-68.

山西良平（2010. 5）生物と共生し，市民と共生するみなとづくり 港湾　87（5）：24-25.

山西良平（2010. 5）大阪市の博物館群の系譜 国際博物館の日シンポジウム「都市の魅力発信と博物館連携―大阪市の博物館を語る―」記録集（財団法人大阪市博物館協会発行）pp. 4-7.

山西良平（2010. 8）巻頭エッセイ　地域の課題解決における博物館の存在感―大阪湾における行政・市民・研究者の連携活動に参加して見えてきたこと 博物館研究　45（8）: 5-6.

山西良平（2010. 9）生きもののつながり雑学コーナー アシナガゴカイ 私たちの自然51（８・９月号）: 10.

山西良平（2010. 9）「不自然の中の自然」がもたらす宝物 大阪人 64（10）: 26-29.

山西良平（2010.10）桜之宮「水の広場」のクロベンケイガニ ns. 56（10）: 137-138.

山西良平（2011. 3）【第１部】新たな博物館をめざして　私たちがめざすもの 平成22年度国際博物館の日記念「大阪市博物館フォーラム（2010）新たな可能性を求めて」記録集（財団法人大阪市博物館協会編集・発行）

川井浩史*・山西良平（2011. 3）大阪湾の水環境―水質と底生生物相の変遷― 瀬戸内海（61）: 8-13.

Yamanishi, R.（2011. 3）Morphological characters of *Ligia cinerascens* Budde-Lund, 1885（Crustacea: Isopoda: Ligiidae）newly recorded from Osaka Bay, the Inland Sea of Japan, compared with those of *L. cinerascens* from Hokkaido and of *L. exotica* Roux, 1828 from Osaka Bay. Bull. Osaka. Mus. Natur. Hist.（65）: 1-8.

【動物研究室】

波戸岡清峰（2010. 5）淀川水系歩いて採って考えて（その７・魚班の巻）ウキゴリここにいたのか. ns. 56（5）：68, 72.

波戸岡清峰（分担執筆）（2010. 7）第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑　山と海をつなぐ生物多様性」展示解説書. 113 pp.

石田　惣・久加朋子*・金山　敦*・木邑聡美*・内野　透*・東　真喜子*・波戸岡清峰（2010. 11）外来魚の優占がイシガイ科二枚貝の繁殖に与える負の影響―淀川ワンド域におけるイシガイ *Unio douglasiae nipponensis* での事例. 保全生態学研究 15（2）: 265-280.

花﨑勝司*・波戸岡清峰（2010.12）大和川水系・石川の魚類の現状―2004年～2006年―. 自然史研究 3（11）: 159-166.

波戸岡清峰（2011. 3）博物館実習における普及行事の活用について（大阪市立自然史博物館の例）. 追手門学院大学博物館研究室，Musa（25）: 9-11.

和田 岳（2010. 7）キジバトの長い繁殖期のひみつ.

私たちの自然（558）: 12-13.
和田 岳（2010.7）淀川水系のヌートリアの生息状況の変遷. ns. 56: 90-92.
和田　岳（分担執筆）（2010. 7）第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑 山と海をつなぐ生物多様性」展示解説書. 113 pp.
和田　岳（2010.10）堺にあがったマッコウクジラの記録　埋立地から砂場まで. ns. 56: 130-132.
和田　岳（2010.10）木の実と鳥の観察会 木を見て鳥のことを考えよう. Birder 24（10）: 30.
和田　岳（2010.11）書評「アリの背中に乗った甲虫を探して」「生物多様性とは何か」「動物たちの反乱」. 全科協ニュース 40（6）: 7.
和田　岳（2010.11）カラーリングをつけたユリカモメ標識調査からわかること. むくどり通信（210）: 8.
和田　岳（2011. 2）広辞苑を 3 倍楽しむ（第37回）鳩居. 岩波科学 81（2）: 130.
和田　岳（2011. 3）身近な鳥から鳥類学 第 1 回 サクラの花に来る鳥たち. むくどり通信（212）: 12.
石田　惣（2010. 4）モクズガニはどこをのぼる？どこまでのぼる？. ns. 56（4）: 7-9.
石田　惣（2010. 5）水生無脊椎動物と淡水環境―水質から景観へ. 昆虫と自然 45（5）: 10-14.
石田　惣・プロジェクトＹカブトエビ班（2010. 6）「アジア」が勢力拡大し,「アメリカ」は衰退した？ ’80年代と’00年代の比較. ns. 56（6）: 1-4.
石田　惣（分担執筆）（2010.7）第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑　山と海をつなぐ生物多様性」展示解説書. 113 pp.
石田　惣（2010.12）水生無脊椎動物と淡水環境―水質から景観へ. In. 河川環境の指標生物学（環境 Eco 選書 2）, 谷田一三編, 北隆館. pp 95-102.
石田　惣（2011. 2）大阪府堺市の埋立地でオオクビキレガイを確認. ns. 57（2）: 6-7.
石田　惣・淀川水系調査グループ「プロジェクトＹ」カブトエビ班（2011. 3）淀川水系における大型鰓脚類の分布とその要求環境―市民参加型調査の結果から. 日本生態学会第58回大会講演要旨, p.442.

【昆虫研究室】

金沢　至（2010. 3）“連載「あきつ賞」受賞サイト”を始めるにあたって. 昆蟲ニューシリーズ 13（2）: 11-12.
Kanazawa, I., C.-C. Chen*, Y. Hiyoshi*, M. Hasegawa* and Y.-S. Bae*（2010. 7）Meaning of discovery of a Chestnut Tiger, *Parantica sita niphonica* moved from Japan to Chinese continent（Insecta: Nymphalidae: Danainae). Ann. Mee. Kor. Soc. Nat. Con. 2010: 13.
Hasegawa, M.* and I. Kanazawa（2010. 7）Current state of an invasive alien plant species, *Gymnocoronis spilanthoides* in Japan. Ann. Mee. Kor. Soc. Nat. Con. 2010: 14.
Takeuchi, K.* and I. Kanazawa（2010. 7）A preliminary investigation on diurnal activity of Lepidoptera（Insecta). Ann. Mee. Kor. Soc. Nat. Con. 2010: 15.
Kanazawa, I.（2010. 7）Futuristic view of the National Museum of Natural History in Korea, based on the realities of Natural History Museums in Japan. Pro. Kor. Soc. Nat. Con.: 55-56.
金沢　至（2010. 7）淀川流域のトンボ類. 第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑－山と海をつなぐ生物多様性－」特別展解説書：47-48.（大阪市立自然史博物館編：分担執筆）
竹内啓一*・金沢　至（2010. 9）鱗翅類の日周活動性①－予備的調査－. 日本昆虫学会第70回大会（鶴岡）講演要旨：75.
金沢　至（2010. 9）「博物館だより」の連載にあたって. 昆蟲ニューシリーズ 13（3•4）: 126.
土井妙子*・大島新一郎*・金沢　至（2010.12）大阪府のウラナミジャノメの生息環境. ns. 56（12）：2-4.
金沢　至・長谷川政興*（2010.12）韓国のアサギマダラの実態が徐々に判明してきた！　渡りチョウを調べる会ニュース　4（1•2）: 3-6.
金沢　至（2010.12）愛知県伊良湖岬・三重県神島・答志島・菅島・坂手島における移動昆虫調査結果. 渡りチョウを調べる会ニュース　4（1•2）: 12-13.
金沢　至（2010.12）編集後記. 渡りチョウを調べる会ニュース　4（1•2）: 16.
金沢　至・竹内啓一*（2011. 1）蛾類の日周活動性－シロオビノメイガ・ツゲノメイガ・アゲハモドキなど－. 日本蛾類学会2011年度研究発表会講演要旨集：4.
初宿成彦（2010• 4）かわいいテントウムシを利用する. 私たちの自然（555）: 16-17.　鳥類保護連盟.
初宿成彦（2010. 6）都市の昆虫学. 昆虫と自然45（7）: 24-27.
初宿成彦（2010. 6）淀川水系の斑めう. 淀川水系 歩いて採って考えて（その 8 ）. ns. 56（6）: 5-6.
初宿成彦ほか（2010. 6）行事の記録　ジュニア学芸員になろう！　セミのぬけがらの中の生物を調べよう。ns. 56（6）: 10.
大阪市立自然史博物館（2010. 7）第41回特別展「み

んなで作る淀川大図鑑」. 大阪市立自然史博物館. 112 pp.（淀川の甲虫, 淀川から絶滅した甲虫類, おすすめフィールドガイドを担当）

Shiyake, S, Lamb AB* and Montgomery ME* (2010.8). Occurence of *Sasajiscymnus tsugae* in Japan. 5 th Hemlock Woolly Adelgid Symposium. Ashville, NC., USA.（Poster）

初宿成彦（文責）（2010. 8）靭公園セミのぬけがら調べ2009の結果. ns. 56（8）.

初宿成彦（2010. 9）気候温暖化がセミ類に及ぼす影響. 石井実（監修）, 環境エコ選書 日本の昆虫の衰亡と保護: 214-221. 北隆館.

初宿成彦（2010.10）ヒメハルゼミの発音生態と分布. 昆虫と自然 45(12): 8-11。

初宿成彦（2010.10）近江神宮のミカドテントウ. Came 虫（157): 6. 滋賀むしの会.

安井通宏*・初宿成彦・大阪自然史博プロジェクトＹ甲虫班（2010.11）（P-2）淀川水系のゴミムシ相と分布状況（第３報）本流域と支流域の種類相. 第１回日本甲虫学会大会講演要旨集: 16.

Abell JK*, Van Driesche R*, Shiyake S, Kamata N*, Aizawa M*, Lamb A* and Lyon S*（2010. 12）. Scales and associated parasitoids on hemlock trees in Japan: implications for classical biological control of elongate hemlock scale (*Fiorinia externa*) in the United States. The Entomological Society of America, 58 th Annual Meeting, San Diego, CA., USA: 145 p.

初宿成彦（2010.12）（新）日本甲虫学会・第１回大会の報告. 甲虫ニュース（172): 38. 日本鞘翅学会.

初宿成彦（文責）（2011.1）行事の記録　種子島合宿. ns. 46（1): 2-4.

初宿成彦・井上智博*（2011.1）第４節 池島・福万寺遺跡の昆虫遺体. 池島・福万寺遺跡10：193-195.（財）大阪府文化財センター.

安井通宏*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班（2011. 3）淀川水系調査流域におけるミズギワゴミムシ相と分布状況. 大阪市立自然史博物館研究報告（65): 39-76.

初宿成彦（文責）（2011. 3）猛暑の翌年は大発生するか？　靭公園セミのぬけがらしらべ2010の結果. ns. 57（3): 5.

初宿成彦（編）（2011. 3）大阪市立自然史博物館　所蔵甲虫類目録（１）－ゲンゴロウ科, ゴミムシダマシ科, ナガクチキムシ科－. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第43集. 208 pp.

Matsumoto, R. and K.Takasuka*（2010. 6）A revision of the genus *Zatypota* Förster of Japan, with descriptions of nine new species and notes on their hosts（Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae）. Zootaxa, 2522: 1-43.

Watanabe, K.* and R. Matsumoto（2010.12）Disjunctive distribution of the basal genus *Aplomerus*（Hymenoptera: Ichneumonidae: Xoridinae）in East Asia and North America, with a new species from Japan. Entomological Science, 13: 375-380.

Matsumoto, R.（2010. 6）Host manipulation by spider parasitoids of the *Polysphincta* group（Pimplinae, Ichneumonidae）. Seventh international conference of Hymenopterists（Köszeg, Republic of Hungary）. Abstract: 42.

Takasuka, K* and R. Matsumoto（2010. 6）Oviposition behaviour and infanticide by *Zatypota albicoxa*（Hymenoptera, Ichneumonidae）, an ectoparasitoid of a theridiid house spider. Seventh international conference of Hymenopterists（Köszeg, Republic of Hungary）. Abstract: 60.

松本吏樹郎・高須賀圭三*（2010. 9）日本産 *Zatypota* 属とその寄主について（Ichneumonidae, Pimplinae, *Polysphincta*-group）日本昆虫学会第70回大会（山形）講演要旨集：31.

高須賀圭三*・松本吏樹郎（2010. 9）マダラコブクモヒメバチ *Zatypota albicoxa* による子殺し（Hymenoptera, Ichneumonidae, *Polysphincta*-group）日本昆虫学会第70回大会（山形）講演要旨集：81.

松本吏樹郎(2010. 10）小難しい学芸員のやさしい小咄 刺す？刺さない？ハチの針の話. ns. 56（10）：10-11.

大阪市立自然史博物館（編）（2010. 7）第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑－山と海をつなぐ生物多様性－」特別展解説書：112 p.（松本：分担執筆）.

【植物研究室】

佐久間大輔（2010）自然系博物館の未来（第11回）市民とともに良質なコレクションを築くために. 科学 80（4）：415-419.

佐久間大輔（2010）小難しい学芸員のやさしい小咄 アラカシとうどんこ病. ns. 56（6）：8.

田中久美子*・佐久間大輔（2010）大阪府産変形菌追加. 変形菌28：45-49.

五月女草子*・釋知恵子*・佐久間大輔（2010）一枚のクイズカードから広がる博物館の普及教育. JMMA 会報 15（3）：40-46.

佐久間大輔・宮川五十雄*（2010.10）小難しい学芸員

のやさしい小咄　今だからもう一度生物多様性．ns. 56（10）：11-12.
鈴木まほろ*・亀田佳代子*・佐久間大輔・真鍋 徹*（2010）地域の博物館が担う自然史研究の意義．日本生態学会誌60：399-403.
佐久間大輔（2010）ナラ枯れ、ついに大阪府下に侵入．都市と自然（416）：8-9.
佐久間大輔（2010.12）骨を埋めた砂場からでたキノコ．ns. 56(12)：11.
佐久間大輔（2011. 1）博物館とインターネット－学術情報発信の現状を中心に（特集 博物館とインターネット）．博物館研究 46（1），5-7，2011-01
佐久間大輔（2011）「地域の自然の情報拠点」であるための学芸員制度．全科協ニュース41(1)：3-4.
佐久間大輔（2011）里山の危機．地球環境学事典（総合地球環境学研究所編）．弘文堂，東京.
佐久間大輔・伊東宏樹*（2011）里山の商品生産と自然．里と林の環境史（湯本貴和,大住克博編），文一総合出版，東京.
佐久間大輔・伊東宏樹*（2011）西日本の里山生物のルーツ．里と林の環境史（湯本貴和，大住克博編），文一総合出版，東京.
佐久間大輔（2010. 4）「きのこのヒミツ」の秘密．日本菌学会ニュースレター2010-4：1-3.
河原 栄*・佐久間大輔・赤石大輔*（2011. 3）四高のキノコ・ムラージュの謎．金沢大学資料館紀要6：9-22.
佐久間大輔（2011）ワークシートから始まる連携－学芸員・教員・生徒－．博学連携ワークショップ「学校と博物館が学びあえる場の構築をめざして」報告書：8-9.
志賀　隆・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ植物班*（2010）淀川水系におけるヒロハオモダカ *Sagittaria platyphylla*（Engelm.）J. G. Sm. の定着とナガバオモダカの学名について．水草研究会誌93：13-22.
志賀　隆（2010. 7）ホナガカワヂシャ（ゴマノハグサ科）の越冬記録．ns. 56（7）：4.
志賀　隆（2010）水草研究会第32回全国集会大阪大会を振り返って．水草研究会誌94：48-51.
志賀　隆（2010. 8）ネイチャーサロン　みんなで作った「淀川大図鑑」．ns. 56（8）：6.
志賀　隆（2010. 8）オグラコウホネ．ns. 56（8）：1，16.
志賀　隆（2010）水生植物コウホネ属（スイレン科）における「種」のあり方について．近畿植物同好会会報（109）：13-15.

【地史研究室】

川端清司（2010. 4～2011. 3）「上町断層」って何だろう？　－地震と活断層－　うえまち（NPO 法人まち・すまいづくり発行　20010年 5 月号～2011年 4 月号連載）
川端清司（2010. 4）三重県鳥羽市から見つかった恐竜化石の発掘調査　大恐竜展―知られざる南半球の支配者たち―から．ns. 56（4）：2-5.
川端清司（2010. 5）大陸移動説100年（小難しい学芸員のやさしい小咄）．ns. 56（5）：6-7.
川端清司・中条武司（2010. 8）自然観察地図「活断層を歩く」の作成．地学団体研究会第64回総会（福島）講演要旨集・巡検案内書：77.
川端清司・中条武司（2010. 9）自然観察会「活断層を歩く」シリーズの企画と自然観察地図の作成．日本地質学会第117年学術大会（富山大学）講演要旨集：52.
川端清司（2011. 2）自然観察地図「活断層を歩く」有馬―高槻構造線活断層系　真上断層・安威断層．ns. 57（2）：2-4.
樽野博幸（2010.10）哺乳類化石の変遷から見た日本列島と大陸間の陸橋の形成時期．第四紀研究49（5）：309-314.
松橋義隆*・樽野博幸（2011. 3）大阪市西成区太子から産出した中期更新世の長鼻類切歯化石．大阪市立自然史博物館研究報告（65）：91-100.
塚腰　実（2010. 6）*Spirematospermum* と *Schenkiella* の日本からの発見の意義．日本古生物学会，講演要旨.
塚腰　実（2010. 6）巻頭写真　三木　茂博士収集植物化石および現生植物標本．植生史研究18（1）：1-2.
塚腰　実（2010. 7）コラム巨椋池．第41回特別展解説書「みんなでつくる淀川大図鑑－山と海をつなぐ生物多様性」：6-7．大阪市立自然史博物館，大阪，113 p.
Tsukagoshi M.（2010. 7）Discovery of *Spirematospermum* and *Schenkiella* from Japan; Miocene floral interaction between Europe and East Asia. 8 th European Palaeobotany-Palynology Conference, Abstract.
Tsukagoshi M., Momohara A.* and Minaki M.*（2010. 8）The life and works of Dr. Shigeru Miki. The third *Metasequoia* Symposium, Abstract, p.66.
Tsukagoshi M.（2010. 8）Recent findings about *Pinus trifolia* flora. The third Metasequoia Symposium, Abstract, p.18.

塚腰　実（2010. 11）大型植物化石．日本地方地質誌，北海道地方：175-177．朝倉書店，東京．

【第四紀研究室】

大阪市立自然史博物館（編）（2010. 7）第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑－山と海をつなぐ生物多様性－」特別展解説書：112 p.（中条：分担執筆）．

中条武司（2010. 8）市民と博物館で身近な自然環境調査：大阪市立自然史博物館と友の会の活動．日本第四紀学会2010年大会（東京学芸大学）講演要旨集：159.

中条武司（2010. 8）淀川と大阪湾の深い関係．ns. 56（8）：111-112.

山中康平*・中口　譲*・長谷川徹*・冬野正史*・益田晴恵*・中条武司・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班（2010. 9）淀川水系における化学成分の広域分布－主要化学成分による河川水の分類－．2010年度日本地球化学会年会講演要旨：55.

中条武司・中口　譲*・益田晴恵*・里口保文*・淀川水系調査グループ「プロジェクトＹ」水質班・琵琶湖博物館水はしかけ（2010. 9）市民・博物館・大学の連携による淀川水系の水質環境調査．日本地質学会第117年学術大会（富山）講演要旨：150.

山下翔大*•中条武司・西田尚央*（2010. 9）洪水時に河口では何が起こっているか？－2009年10月　伊勢湾櫛田川河口干潟の例－．日本地質学会第117年学術大会（富山）講演要旨：90.

川端清司・中条武司（2010. 9）自然観察会「活断層を歩く」の企画と観察地図の作成．日本地質学会第117年学術大会（富山）講演要旨：52.

Yamashita, S.*, Naruse, H.*, Nakajo, T.（2010.9）Sediment transport pathways on the modern microtidal sand flat reconstructed by the new method of sediment trend analysis（P-GSTA): case studies of Kushida River and Obitsu River deltas, Japan. Abstract, 18 th International Sedimentological Congress, Mendoza, Argentina: TS 1-5.

中条武司（2011. 1）石ころに見る川と海．ns. 57（1）：8.

中条武司（2011. 2）干潟合宿の日程は誰が決めている？ ns. 57（2）：17.

中口 譲*・冬野正史*・山中康平*・ 益田晴恵*・中条武司（2011. 3）淀川水系のセレンのスペシエーション．近畿大学理工学総合研究所研究報告23：59-65.

Ⅶ. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

波戸岡
日本魚類学会評議員

和田
日本鳥学会庶務幹事・広報委員
日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員

石田
日本貝類学会評議員
環境省モニタリングサイト1000沿岸域検討委員

金沢
日本昆虫学会評議員
日本昆虫学会電子化推進委員長
日本環境動物昆虫学会評議員
日本鱗翅学会近畿支部幹事
渡りチョウを調べる会 HP・編集担当
大阪市立大学非常勤講師「生物学実験Ｂ」

初宿
日本昆虫学会評議員
日本甲虫学会評議員
日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研究部会運営委員

松本
日本昆虫学会評議員

佐久間
日本菌学会ニュースレター編集担当幹事
全国科学博物館協議会ニュースレター編集委員
岸和田市環境審議会委員

志賀
水草研究会幹事

川端
日本地質学会代議員
地学団体研究会全国運営委員（8月まで）
地学団体研究会大阪支部運営委員

塚腰
地学団体研究会大阪支部運営委員
大阪市立大学教務部非常勤講師「大阪の自然」

中条
日本地質学会代議員
日本堆積学会事務局員
地学団体研究会大阪支部運営委員

Ⅷ．第３回 国際メタセコイアシンポジウムの開催

三木茂博士が化石をもとにメタセコイア属を設立してから、2010年で70周年を迎えた。メタセコイア発見70周年を記念して世界のメタセコイア研究者が集う第３回国際メタセコイアシンポジウムが2010年８月３日～８日に、大阪市立自然史博物館で開催された。また、市民向けの関連行事が行われた（詳しくは５～８ページ）。

７月24日～10月31日：特別陳列
「三木博士の収集したメタセコイア化石と水草標本」
７月24日：野外観察会　メタセコイアの見学会
８月１日：市民向け講演会・観察会
「メタセコイアと地球環境の歴史」
　百原　新氏（千葉大学准教授）
「メタセコイアの観察会」
　長居植物園に復元された第三紀植物群を観察
８月３日：開会式・ポスター発表
８月４日：シンポジウム・ポスター発表
８月５日：シンポジウム・ポスター発表・閉会式
８月６日～８日：メタセコイアの化石産地見学・現地討論会

Ⅸ．外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成22年度に受け入れた外部研究者は次表のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

佐藤隆春（2010. 5）室生・赤目.（社）全国地質調査業協会連合会・特定非営利法人地質情報整備・活用機構（GUPI）共編，日本列島ジオサイト地質百選Ⅱ：92-93，オーム社，東京.

佐藤隆春（2010. 5）二上山.（社）全国地質調査業協会連合会・特定非営利法人地質情報整備・活用機構（GUPI）共編，日本列島ジオサイト地質百選Ⅱ：100-101，オーム社，東京.

佐藤隆春・古山勝彦・茅原芳正・山本俊哉（2010. 9）大台コールドロンを構成する岩脈状の火砕岩は弧状クレバスへの崩落堆積物．火山学会講演予稿集2010年度秋季大会：119.

室生団体研究グループ（佐藤隆春・古山勝彦・茅原芳正・別所孝範・山本俊彦）（2010. 9）室火砕流堆積物基底相にみられる不均質なレオモルフィック・イグニンブライトの産状．火山学会講演予稿集2010年度秋季大会：24.

菅森義晃・藤井裕城・別所孝範（2010. 5）ペルム紀新世海溝充填堆積物の供給源：超丹波帯高槻層のモード組成，重鉱物および砕屑性ザクロ石の検討から．日本地球惑星科学連合2010年大会予稿集，SGL 046-P 09.

菅森義晃・藤井裕城・別所孝範・篠田圭司（2010. 9）京都西山地域の三畳系中部統島本層の重鉱物および砕屑性ザクロ石の検討．日本地質学会第117年学術大会講演要旨：206.

鳴橋直弘・岩坪美兼（2010.12）日本産バラ科ワレモコウ属の2新雑種．植物地理・分類研究 58：15-19.

鳴橋直弘（2010.12）アジア産キイチゴ属の分類学的ノート（5）キビナワシロイチゴと中国の *Rubus kulinganus*．植物地理・分類研究58：43-46.

鳴橋直弘（2010.12）アジア産キイチゴ属の分類学的ノート（6）新雑種 *Rubus* × *kumakajiichigo*．植物地理・分類研究58：47-49.

花﨑勝司・波戸岡清峰（2010. 12）大和川水系・石川の魚類の現状－2004年～2006年－．自然史研究３(11)：159-166.

林　寿一（2011. 1）ミンダナオキイチゴシジミは2種に分けられるのではないだろうか？　昆虫と自然46(1)：31-32.

表１．平成22年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
石井久夫	外来研究員	本人	中条武司 石田　惣
石田路子	外来研究員	本人	石田　惣
市毛勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大石久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大塚公雄	外来研究員	本人	金沢　至
大西行雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
岡本素治	外来研究員	本人	塚腰　実 内貴章世
奥田彩子	外来研究員	本人	佐久間大輔
奥田　尚	外来研究員	本人	川端清司
小郷一三	外来研究員	本人	山西良平
佐藤隆春	外来研究員	本人	中条武司 川端清司
篠川貴司	外来研究員	本人	石田　惣
清水裕行	外来研究員	本人	金沢　至
菅森義晃	外来研究員	本人	川端清司
長江真紀子	外来研究員	本人	石田　惣

鳴橋直弘	外来研究員	本人	内貴章世
花﨑勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
林　勇夫	外来研究員	本人	山西良平
林　寿一	外来研究員	本人	金沢　至
前田哲弥	外来研究員	本人	佐久間大輔
松江実千代	外来研究員	本人	塚腰　実
丸井英幹	外来研究員	本人	佐久間大輔
道盛正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
渡辺克典	外来研究員	本人	初宿成彦
渡部哲也	外来研究員	本人	石田　惣

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した 後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なもの については広く標本情報を公開している。

22年度に寄贈を受けた主なコレクションは、三重県のカワウ・ミズナギドリ類（56点）、西表島の鳥（84点）、広島県太田川流域の昆虫（13,846 点）、日本産甲虫とハエ（520点）、大阪南部のシダ（1,058点）、新名神高速道路の生物標本（高槻～箕面間）の植物（1,391点）、本郷次雄菌類 コレクション（約7,000点）、日本および世界の鉱物標本（500点）などである。さらに、プロジェクトＹの成果の一部として、淀川水系の生物相に関する１万点以上の標本を収集した。平成22年度末の総資料数は1,466,654点である。

Ⅰ．寄贈および交換標本

■動物研究室

千葉県のタヌキ　1点　浅井眞紀子氏
堺市のカワウ　1点
下湯瀬夏生・下湯瀬可奈子氏
住吉区のネコ　1点　橘　麻紀乃氏
東住吉区のイタチ　1点　三輪　真悟氏
中海のウミモワレカラ　2点　森　敦史氏
アルマジロ類の一種　1点　多田　実央氏
池田市のアオダイショウ　1点　高橋　良寛氏
北区のヤブサメ　1点
積水ハウス環境推進部
富山県のハツカネズミ　2点　河野　勇希氏
奈良県のジネズミ・アカネズミ他
7点　河原　風花氏
奈良県のアカネズミ他　3点　河原　風花氏
奈良県のヒヨドリ　2点　河原　風花氏
此花区のクマネズミ・カワラヒワ
2点　磯貝　知香氏
埼玉県のノウサギ他　25点　藤田　宏之氏
枚方市のバン　1点　山本動物病院
箕面市のイタチ他　3点　大矢　樹氏
阪南市のイタチ　1点　河野　芳子氏
奈良県のノウサギ　1点　河原　風花氏
奈良県のノウサギ　1点　河原　風花氏
奈良県のテン　1点　河原　風花氏
青森県のテン　1点
力本美貴子・西澤真樹子・米澤　里美氏
三重県のヌートリア　1点　田村　修市氏
阪南市のタヌキ　1点　三宅　壽一氏
富山県のタヌキ　1点　河野　勇希氏
兵庫県のタヌキ　1点　米澤　里美氏
箕面市のアライグマ　3点　澤田　義弘氏
兵庫県のアナグマ　1点　山田　智大氏
奈良県のニホンジカ　1点
河原　風花・河原　和子氏
奈良県のスズメ　2点　安川　洋子氏
中央区のアオサギ　1点
東部方面公園事務所
ロシア産オオタカ　1点
岩崎　佳子・永橋　敏幸氏
千早赤阪村のシロハラ・ツグミ
2点　横山　太氏
枚方市のヒヨドリ　1点　冨永　修氏
此花区のヒヨドリ　1点　磯貝　知香氏
兵庫県のスズメ　1点　谷　陽子氏
淀川汽水域のベントス　314点
プロジェクトＹフジツボ班
兵庫県のイタチ　1点　米澤　里美氏
堺市のオオクビキレガイ　5点　奥田喜代子氏
北区のアオバト　1点
積水ハウス環境推進部
淀川水系の鰓脚類　32点
プロジェクトＹカブトエビ班
堺市のアライグマ　1点　浦野　信孝氏
滋賀県のキツネ　1点　小山　栄氏
岐阜県のハクビシン　1点　齊藤　英嗣氏
三重県のアライグマ　1点
名張市農林振興室
三重県のカワウ・ミズナギドリ類
56点
宮越　和美・安達　直孝氏
奈良県のテン　1点　河原　風花氏
堺市のブタ　1点　浦野　信孝氏
長野県のヒミズ　1点　白川　勝正氏
住吉区のハシボソガラス　1点　橘　麻紀乃氏
淀川水系の貝類　292点
プロジェクトＹ貝班
長野県のキツネ　1点　安田　守氏
兵庫県のアナグマ　1点　米澤　里美氏
兵庫県のイヌ　1点　米澤　里美氏
愛知県のイタチ　1点　齊藤　英嗣氏
環境省モニタリングサイト1000大阪湾サイト
（沿岸域・磯環境）バウチャー標本
26点
環境省・国際湿地保全連合
千葉県のウミネコ　3点　安達　直孝氏

天王寺動物園のケープハイラックス他
45点　天王寺動物園
天王寺動物園のフンボルトペンギン他
30点　天王寺動物園
藤井寺市のタヌキ　1点　井関　浩光氏
滋賀県のハクビシン　1点　菊池　秀明氏
三重県のフルマカモメ・ハシボソミズナギドリ
安達　直孝氏
鹿児島県種子島のミナミヤモリ他
3点　西澤真樹子氏
兵庫県のイタチ　2点　北垣　和也氏
五月山動物園のウォンバット　1点　五月山動物園
貝塚市のタヌキ　1点　城野美姫子氏
滋賀県のタヌキ　1点　乾　公正氏
羽曳野市のタヌキ　1点　井関　浩光氏
奈良県のノウサギ　1点　河原　風花氏
豊中市のイタチ　1点　森田　邦利氏
堺市の鳥　11点　浦野　信孝氏
和歌山県のメジロ　1点　熊代　直生氏
西表島の鳥　84点
環境省西表野生生物保護センター
兵庫県のアライグマ　1点　米澤　里美氏
大阪湾のサメハダテナガダコ　1点　有山　啓之氏
豊中市のタヌキ　1点　古屋　直子氏
三重県のタヌキ　1点　運天　政元氏
北海道のアライグマ　1点　野見山　氏
豊中市のハシボソガラス　1点　錦　俊哉氏
池田市のスズメ　1点　高橋　良寛氏
北区の鳥　4点
積水ハウス環境推進部
堺市のセンダイムシクイ他　2点　浦野　信孝氏
奈良県のイノシシ・シカ　2点　西澤真樹子氏
天王寺動物園のマンドリル　1点　天王寺動物園
三重県のニホンザル　1点
名張市農林振興室
天王寺動物園のバーバリーシープ他
7点　天王寺動物園
中央区のタヌキ　1点　中島　貴義氏
奈良県のコゲラ　1点　平田　友美氏
此花区のアマガエルとコウモリ
2点　磯貝　知香氏
天王寺動物園のアオウミガメ他
2点　天王寺動物園
兵庫県のエナガ・ノウサギ　2点　大石　陽氏
天王寺動物園のエランド　1点　天王寺動物園
兵庫県のテン　1点　米澤　里美氏
茨木市のイタチ　1点　西川　喜朗氏
長居のムクドリ　1点
渡邉　瑞樹・坂上　涼介・
岩谷　日向・宇野樹生晏氏
島本町のアカハラ　1点　高田　京子氏
豊中市のアオサギ　1点　大矢　樹氏
堺市のタヌキ　1点　浦野　信孝氏
岩手県のタヌキ　1点　宮野　真一氏
高石市のタヌキ　1点　西澤真樹子氏
和歌山県のタヌキ　1点　矢田部典子氏
大阪府のカミツキガメ　4点
環境省近畿地方環境事務所
東住吉区のツグミ　1点　川上　弘子氏
兵庫県のイノシシ　1点　大石　陽氏
岡山県のシジュウカラ　1点　上野　勝広氏
豊中市のハクセキレイ　1点　高妻　勲氏
北区の鳥　20点
積水ハウス環境推進部
沖縄県のシロハラ　1点　佐藤　友香氏
岬町のアカウミガメ　1点　鍋島　靖信氏
広島県のハツカネズミ　1点
松浦　宜弘・西澤真樹子・北野　由崇氏
和歌山県のアオウミガメ　1点　酒田千佳子氏
天王寺動物園のニホンジカ　7点　天王寺動物園
三重県のイタチ　1点　運天　政元氏
山口県のタヌキ　1点　北野　由崇氏
高槻市のタヌキ　1点　池田　裕計氏
泉佐野市のタヌキ　1点　久保　元嗣氏
堺市のタヌキ　1点　浦野　信孝氏
富山県のタヌキ　1点　松浦　宜弘氏
東住吉区のタヌキ　1点　橘　麻紀乃氏
兵庫県のアライグマ　1点　山野井正樹氏
滋賀県のツキノワグマ　1点　白川　芳雄氏
泉南市のヌートリア　1点　岩崎　拓氏
和歌山県のニホンカモシカ他　2点　浦野　信孝氏
長崎県のスズメ他　4点　浅井眞紀子氏
兵庫県のヤマカガシ他　3点
大石　陽・大石　玲子・大石　昂生氏
岸和田市のドバト　1点　小牧　由雅氏
四條畷市のハイタカ　1点　西畑　敬一氏
等脚類副模式標本　24点　布村　昇氏
三重県のクマノエミオスジガニ
16点　木邑　聡美氏
端脚類正副模式標本　38点　有山　啓之氏
口永良部島のタイワンベンケイガニ
1点　野元　彰人氏
貝塚市のアカウミガメ　1点
貝塚市立自然遊学館

京都府のフクロウ　1点
奥田　幸男・奥田　幸江氏
阿倍野区のヒヨドリ　1点　桜井　洋輔氏
兵庫県のハシブトガラス　5点　高津　一男氏
兵庫県のニホンジカ　1点　米澤　里美氏
能勢町のハクビシン　1点　西田　氏
大阪府の陸産貝類　6点　多田　昭氏
能勢町のヌートリア　6点　上條　健一氏
京都府のネコ　1点　荒木　千典氏
天王寺動物園のヒクイドリ・ペンギン
2点　天王寺動物園
吹田市のハヤブサ　1点　平　軍二氏
北区の鳥　3点
積水ハウス環境推進部
奈良県のヒミズ　1点　生地　孝至氏
和泉市のアブラコウモリ　1点　浦野　信孝氏
淀川水系の淡水甲殻類　177点
プロジェクトYカブトエビ班・貝班
奈良県のカケス　1点　乾　喜宏氏
茨木市のフクロウ　1点　村上　剛氏
岸和田市のハツカネズミ　1点　磯貝　知香氏
京都府のアカネズミ　1点　上村　氏
北区のハツカネズミ　2点　稲本　雄太氏
中央区のクマネズミ　1点　葛場　美那氏
淀川水系の無脊椎動物（主にプラナリア類）
93点
プロジェクトYプラナリア班
ニュージーランドのオサガニ科他カニ類
18点　北浦　純氏
福井市のタイワンシジミ　1点　内藤由香子氏
斑鳩町の鰓脚類　2点　小林　智氏
貝塚市のモグラ　1点　西澤真樹子氏
和歌山県のアオウミガメ他　5点　酒田千佳子氏
能勢町のアライグマ他　3点　上條　健一氏
岸和田市のイノシシ　1点　風間　美穂氏
北区の鳥　4点
積水ハウス環境推進部
奈良県のイタチ　1点　橘　麻紀乃氏
中央区のヤマシギ　1点
高田　幸作・高田　昌彦氏
中央区のオオコノハズク　1点　井関　浩光氏
能勢町のイノシシ　1点
浦野　信孝・西口　栄輔氏
兵庫県のキクガシラコウモリ・シカ
1点　浦野　信孝氏
箕面市のイノシシ　1点　浦野　信孝氏
阪南市のカワウ他　6点　三宅　壽一氏
堺市のカワウ　1点　木村　寛氏
奈良県のイノシシ　1点　佐藤　隆春氏
兵庫県のイノシシ・シカ　2点　岡崎冨士男氏
阪南市のイノシシ　1点　三宅　壽一氏
福岡県のイノシシ他　12点　田中　歩氏

■昆虫研究室

広島県太田川流域の昆虫　13846点　山手　義太氏
東南アジア産有剣類　16点　大内和太郎氏
沖縄県産有剣類　4点　大内和太郎氏
日本産甲虫とハエ　520点　春沢圭太郎氏
石垣島産ベニボタルの
1新亜種パラタイプ　1点　松田　潔氏
日本およびマレーシア産昆虫 366点　永井　敦子氏
ヤチバエ科パラタイプ　11点　末吉　昌宏氏
新名神高槻～箕面間
生物調査資料　256点　Nexco 西日本
テナガコガネの1種　2点　福本　真宙氏
石川県産スジアカクマゼミ　9点　土井仲次郎氏
日本産昆虫　56点　西川　喜朗氏
長崎県産ハマベヒメテントウ　1点　市川　顕彦氏
沖縄の昆虫　6点　木下總一郎氏
ボルネオ・サバ産
コガネムシホロタイプ　1点　松本　武氏
淀川水系の昆虫　6500点
プロジェクトY甲虫班（安井・冨永ほか）
中国産ルリクワガタの1種タイプシリーズ
2点　井村　有希氏
石川県産シロベニハゴロモ　3点　冨沢　章氏
宝塚産ヒラズゲンセイ　1点　大期さくら氏
ヒラズゲンセイ　1点
いさかしゅんすけ・りょうすけ氏
キボシヒゲブトコメツキ　1点　黒田　悠三氏
ベトナム産半翅目　11点　林　清彦氏
日本産ハモグリバエタイプシリーズ
8点　笹川　満廣氏
ヒラズゲンセイ　1点　松田　庄暉氏
ヒラズゲンセイ　1点　中島　一郎氏
アカマダラセンチコガネ　1点　植田　義輔氏

■植物研究室

寄贈および交換（*）標本.
大阪南部のシダ　1058点　辻井　謙一氏
新名神高速道路の生物標本（高槻～箕面間）の植物
1391点
西日本高速道路株式会社関西支社大阪工事事務所
日本産植物標本　200点
首都大学東京牧野標本館*
高知県産植物標本　201点
高知県立牧野植物園*

福井県産植物標本　40点
越前町立福井総合植物園プラントピア
日本産植物標本　250点　藤井　伸二氏
兵庫県産植物標本　73点　小林　禧樹氏
日本産水草標本　1020点　浜島　繁隆氏
日本産植物標本　198点　梅原　徹氏
ウンヌケモドキ　1点　田中　光彦氏
堺市鉢ヶ峰産植物標本　136点　堺植物同好会
スズサイコ　1点　織田　二郎氏
泉南地域絶滅危惧植物標本　13点　上久保文貴氏
ヒロハノアマナ　1点　谷本　充甫氏
日本産植物標本　335点　藤井　伸二氏
日本産植物標本　54点　梅原　徹氏
近畿地方産植物標本　75点　田中　光彦氏
近畿地方産植物標本　152点
兵庫県立人と自然の博物館*
高槻市産冬虫夏草標本　60点　坂根　健氏
本郷次雄菌類コレクション
約7000点　本郷富美代氏
生駒産菌類標本　30点　下原　幸士氏

■地史研究室

日本および世界の鉱物　一式　矢田　博士氏
日本各地の化石　一式　林　宏巳氏

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料　10件　都市整備局

Ⅱ．館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、和田…W、石田…Ｉと略記する。

淀川流域（大阪府、京都府）で淡水魚類を採集
（５月、６月、８月、９月、10月、H）
淀川水系流域（兵庫県，大阪府）で淡水魚類を採集
（４～６月、H）
河内長野市（石川）で淡水魚類を採集　（７月、H）
大阪湾で死んでいたマッコウクジラを
大阪府堺市で解体　（５月、H、W、I）
大阪府および和歌山県境界周辺の海岸で
海産魚類を採集　（４月、５月、８月、H）
兵庫県猪名川町・伊丹市・大阪府能勢町・
豊能町・池田市・茨木市・高槻市・島本町・
枚方市・交野市・大東市で両生爬虫類を採集
（４～７月、W）
熊取町で両生爬虫類を採集　（９月、10月、W）
大阪府岬町へアカウミガメの死体を受取（11月、W）
和歌山県田辺市でアオウミガメを採集　（12月、W）
淀川水系流域河川・水田（大阪府・京都府・兵庫県）
で淡水産無脊椎動物を採集　（４月～８月、I）
淀川水系汽水域（大阪府・兵庫県）で
海産無脊椎動物を採集　（４～５月、I）
大阪府岬町・和歌山県和歌山市で
海産無脊椎動物を採集　（４～６月、3月、I）
大阪府堺市で陸産貝類を採集
（５月、９月、10月、I）
和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集　（８月、I）
沖縄県漫湖干潟で海産無脊椎動物を採集　（11月、I）

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員（金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記）が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

４月２日	枚方市	アメンボ（M）
４月５日	枚方市	ガ類（M）
４月10日	大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般（M）
４月11日	京都市右京区京北	昆虫全般（S）
４月13～15日	宮崎県椎葉村	カサアブラムシ（S）
４月16日	淀川区	淀川展関連（S，M）
４月18日	高槻市鵜殿	淀川の甲虫（S）
４月19日	猪名川町	昆虫全般（M）
４月23・29日	京都府八幡市木津川	淀川の昆虫（S）
４月24日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ（M）
４月25日	高槻市三島江	レンゲ畑の昆虫（M）
４月26日	大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般（M）
４月29日	大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般（M）
４月30日	大阪市大阪城公園	昆虫全般（M）
５月４～５日	宮崎県霧島連峰	カサアブラムシ（S）
５月６～８日	鹿児島県種子島	昆虫全般（S）
５月８日	滋賀県甲賀市水口町	昆虫全般（M）
５月９日	交野市ほしだ園地	昆虫全般（M）
５月16日	滋賀県びわ湖バレイ	アサギマダラ（K）
５月18・20日	京都府八幡市木津川	淀川の昆虫（S）
５月21日	高槻市芥川緑地・中畑	行事下見およびカサアブラムシ（S）
５月27日	河内長野市千石谷	ハチ（M）
５月28日	兵庫県淡路市松帆の浦、洲本市由良生石山、南あわじ市湊	アサギマダラ（K）
５月29日	徳島県鳴門市島田島瀬方鼻、南あわじ市湊	アサギマダラ（K）

6月1・5日　高槻市中畑　カサアブラムシ（S）
6月2日　京都市左京区・上賀茂演習林　カサアブラムシ（S）
6月6日　大和郡山市矢田丘陵　昆虫全般（M）
6月14日　京都府八幡市木津川　淀川の昆虫（S）
6月15日　交野市私市植物園　針葉樹の昆虫（S）
6月19日　京都府八幡市～大阪府枚方市樟葉　淀川の昆虫（S）
6月19～30日　ハンガリー・クーセグ　国際ハチ目学会および資料収集（M）
6月20・26・27日　京都市右京区京北　昆虫全般（S）
6月24日　八尾市高安地区　チョウ類（K）
7月1日　西宮市甲山　昆虫全般（S）
7月6日　滋賀県高島市　琵琶湖淀川水系の昆虫（S）
7月8～15日　韓国仁川、竜平、星宇、龍門山　アサギマダラ等（K）
7月10～11日　京都府京丹後市琴引浜　海浜昆虫（M）
7月18日　高槻市芥川緑地　セミ羽化と淀川水系の昆虫（S）
7月20日　奈良県橿原市甘樫の丘　昆虫全般（M）
7月24日　大阪城公園　セミの羽化（S）
7月25日　奈良市　ヒメハルゼミ（S）
7月30・31日　滋賀県びわ湖バレイ　アサギマダラ（K）
7月30・31日　高槻市摂津峡　淀川の昆虫（S）
8月6～8日　鹿児島県種子島　昆虫全般（S）
8月15～25日　米国テネシー州～コネチカット州　昆虫全般（S）
8月23日　奈良県東吉野村薊岳　昆虫全般（M）
8月24日　泉南市男里川河口　昆虫全般（M）
8月30日　奈良県橿原市藤原京跡　バッタ（K）
9月2・11日　高槻市芥川　コオロギ（K）
9月3日　奈良県東吉野村薊岳　昆虫全般（M）
9月5日　西区靭公園　セミぬけがら（S，M）
9月8～10日　青森県つがる市　化石（S）
9月9日　京都府美山町　スズメバチの巣（M）
9月11日　高槻市南平台　昆虫全般（M）
9月12日　河内長野市烏帽子形　昆虫全般（M）
9月21～22日　山形県西川町月山　昆虫全般（M）
9月23・26日　奈良県橿原市藤原京跡　バッタ（K，M）
9月24～26日　岐阜県高山市乗鞍岳　昆虫全般（S）
9月30日　琵琶湖　琵琶湖湖底の昆虫（S）
10月3日　京都府京都市大文字山　昆虫全般（M）
10月7・11日　奈良県香芝市・屯鶴峰　昆虫全般（S）
10月9～11日　愛知県田原市伊良湖岬　昆虫全般（K）
10月10日　熊取町　昆虫全般（S）
10月13～14日　富山県立山　針葉樹の昆虫（S）
10月25～31日　長野県志賀高原・群馬県丸沼・栃木県奥日光　カサアブラムシ（S）
11月1～2日　静岡県富士山　針葉樹の昆虫（S）
11月3日　岐阜県恵那市串原　クロスズメバチ（M）
11月14・25日　八尾市高安地区　チョウ（K）
11月25日　琵琶湖　琵琶湖湖底の昆虫（S）
1月5日　高槻市鵜殿　越冬昆虫（M）
1月7～8日　茨城県土浦市ほか　化石調査（S）
2月13日　千早赤阪村金剛山　越冬昆虫（M）
2月20日　兵庫県三田市有馬富士公園　越冬昆虫（M）
3月9日　貝塚市和泉葛城山、馬場　蛾類（K）
3月22日　大津市・湖南アルプス　昆虫全般（S）
3月24日　貝塚市馬場周辺　蛾類（K）

■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、佐久間…SD、内貴…N、志賀…ST と略記する。

4月15日　和泉市　植物一般（N）
4月17・18日　高槻市鵜殿　植物一般（ST）
4月19日　兵庫県伊丹市～尼崎市　水生植物（ST）
5月2日　兵庫県伊丹市～尼崎市　水生植物（ST）
5月6日　鹿児島県西之表市　植物一般（N）
5月7・8日　鹿児島県熊毛郡中種子町・南種子町　植物一般（N）
5月9日　鹿児島県肝属郡南大隅町　植物一般（N）
5月10・11日　鹿児島県南さつま市　植物一般（N）
5月10日　豊中市～大阪市淀川区　水生植物（ST）
5月16日　豊中市　水生植物（ST）
5月20日　京都市　水生植物（N・ST）
5月22日　三島郡島本町　アリドオシ属（N）
6月10日　埼玉県入間郡越生町

アリドオシ属（N）
6月12日　高槻市本山寺　植物・菌類（SD）
6月15・26日　東大阪市枚岡公園　菌類（SD）
6月16日　高槻市　水生植物（ST）
6月24日　高槻市摂津峡　菌類（SD）
6月28日　枚方市・兵庫県三田市
水生植物（ST）
6月28日　高知県室戸市　ナベワリ属（N）
6月28・29日　奈良県上北山村大台ケ原
植物・菌類（SD）
6月29日　高知県四万十市　ナベワリ属（N）
7月1日　鹿児島県奄美市・大島郡宇検村
アリドオシ属、ナベワリ属（N）
7月2日　鹿児島県大島郡徳之島町
アリドオシ属、ナベワリ属（N）
7月3日　鹿児島県熊毛郡屋久島町
アリドオシ属、ナベワリ属（N）
7月4・5日　熊本県球磨郡五木村・
熊本市・菊池市
アリドオシ属、ナベワリ属（N）
7月15・18日　箕面市箕面公園　菌類（SD）
7月28・30日　高槻市　植物一般（ST）
8月7日　鹿児島県熊毛郡中種子町
南種子町　植物一般（N）
8月9日　鹿児島県熊毛郡屋久島町
植物一般（N）
8月13・15日　豊能町　植物一般（N・ST）
8月14日　大阪市旭区・守口市・寝屋川市・
枚方市・京都府京都市
水生植物（ST）
8月22～27日　中華民国（台湾）花蓮県
アリドオシ属（N）
8月30日　高槻市　植物一般（ST）
9月3日　堺市新桧尾公園　菌類（SD）
9月5日　奈良県橿原市　植物一般（N）
9月5日　栃木県宇都宮市・日光市
コウホネ属（ST）
9月12日　高槻市　植物一般（ST）
9月14～16日　岐阜県・愛知県・三重県
コウホネ属（ST）
9月24～25日　栃木県日光市・那須烏山市
真岡市・佐野市　コウホネ属（ST）
9月30日　熊取町　植物一般（ST）
10月6日　三重県玉城町・南伊勢町
ヒメコウホネ（ST）
10月6・7日　奈良県上北山村大台ケ原
植物・菌類（SD）
10月9～11日　愛媛県伊予西条市　菌類（SD）
11月7日　和泉市信太山　植物一般（ST）

■地史研究室

担当学芸員は、樽野…T、川端…K、塚腰…Gと略記する。

5月31日　大阪府堺市
大阪湾で漂流していたマッコウクジラ（T）
7月21日　滋賀県湖南市
古琵琶湖層群植物化石（G）
8月6日　岐阜県多治見市
土岐口陶土層植物化石（G）
8月20日　福島県伊達市永井鉱山
タングステン鉱（K）
8月24日　和歌山県橋本市　紀ノ川の岩石（K）
8月25日　泉南郡熊取町　ソテツの幹（G）
11月24日　泉佐野市　和泉層群植物化石（G）
12月5日　泉佐野市　和泉層群植物化石（G）
12月6～8日　長崎県長崎市、熊本県八代市
長崎変成岩（K）

■第四紀研究室

担当学芸員は、石井…I，　中条武司…Nと略記する。

5月5～8日　鹿児島県種子島　海浜砂、軽石（N）
5月13～14日　福岡県北九州市　干潟堆積物（N）
7月9日　滋賀県甲賀市
古琵琶湖層群火山灰試料（I）
8月30日　和歌山市
河川および海浜礫・砂（N）
9月24日　大阪市浪速区　遺跡地層（N）
10月7日　奈良県香芝市　二上山岩石（N）
12月1日　吹田市　大阪層群火山灰試料（I）
1月20日　吹田市　大阪層群火山灰試料（I）

Ⅲ．業務委託による収集

業務名：大阪湾産底棲生物分布調査業務
業務概要：大阪湾西寄りの水深20m以深における甲殻類、軟体動物、魚類などの底棲生物の分布調査を行った。
調査水域：大阪湾西寄り
調査時期：2011年2月～3月

Ⅳ．資料数

■動物研究室（平成22年度末）

海綿動物	128
刺胞動物・有櫛動物	679
扁形・紐形動物	387

触手動物	138
環形動物	5,585
甲殻類	13,679
軟体動物	31,919
棘皮動物	2,575
原索動物	452
その他無脊椎動物	1,024
魚類	36,868
両生類	22,043
爬虫類	7,891
鳥類	6,526
哺乳類	2,374
（計）	132,268

■昆虫研究室（平成22年度末、未登録標本を含む）

標本総数	905,045
日本産	
カワゲラ目	442
カゲロウ目	10,173
トンボ目	17,839
カマキリ目	388
直翅目	11,906
ナナフシ目	453
ハサミムシ目	512
ガロアムシ目	98
ゴキブリ目	484
シロアリ目	92
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類　（セミなど）	13,934
異翅類　（カメムシなど）	29,262
脈翅目	1,504
シリアゲムシ目	1,653
トビケラ目	2,194
蛾（ガ）	64,637
蝶（チョウ）	67,482
甲虫目	297,356
ハエ目	43,773
ハチ目	43,373
その他の昆虫（各目）	16,975
クモなど	16,402
（計）	641,316
外国産	
蝶（チョウ）	82,512
蛾（ガ）	7,727
ハチ目	4,957
ハエ目	3,123
甲虫	123,247
脈翅目	51
同翅類（セミなど）	6,010
異翅類（カメムシなど）	2,043
直翅型昆虫	3,214
トンボ目	1,298
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,117
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
クモなど	1,576
（計）	263,729

■植物研究室（平成22年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	263,787
蘚類標本	35,920
苔類標本	23,230
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	16,950
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
（計）	362,074

■地史研究室（平成22年度末、登録済標本数）

岩石	1,275
鉱物	2,513
脊椎動物化石	1,515
古生代無脊椎動物化石	1,370
中生代無脊椎動物化石	3,090
有孔虫等微化石プレパラート	17,841
放散虫化石	135
古生代植物化石	185
中生代植物化石	367
第三紀植物化石	3,741
（計）	30,662

■**第四紀研究室**（平成22年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
第四紀植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941(種)
現生シダ植物胞子	362(種)
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,621(件)
（計）	36,605点(件・種)

V．自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への応対に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学 芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えている。

平成９年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成22年度（2010年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっている。

平成22年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、317部で、平成21年度末現在の入力済み収蔵数は12,869部である。また、交 換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成22年度に2,736冊、平成22 年度末現在の累計170,016冊である。

１．個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

●**個人：**

林正美、税所康正、米澤里美、粉川昭平、藤田宏、藤井伸二、辻本善次、谷田一三、大草伸治、大垣俊一、早川貞臣、佐々木央、宮武頼夫、岸由二、安松貞夫

●**民間団体、出版社、企業など：**

日経 BP 社、読売新聞大阪本社経済部、西日本高速道路株式会社関西支社　大阪工事事務所、サンチャイルド・ビッグサイエンス編集担当、JT 生命誌研究館

●**政府機関及び自治体および関連団体、大学、研究所など：**

北海道大学総合博物館、北海道大学　中谷一宏・矢部衛・今村央、文部科学省、愛知県、東北公益文 科大学地域共創センター、東京都環境局自然環境部、島根県立三瓶自然館、長良川下流域生物相調査団　向井貴彦（岐阜大学地域科学部）、大阪大学総合学術博 物館、きしわだ自然資料館、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、環境省自然環境局生物多様性センター、奈良県生物教育会、双翅目談話会、堺植物同好会　奥 中登、郷土日田の自然調査会

２．購入等によるもの

●**図書購入費による購入**（登録済みの分のみ）

平成22年度　　75冊

●**消耗品費による購入**

国内７誌

［平成21年度購入雑誌］

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

●**学会への加入による収集**

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会誌、Applied Entomology and Zoology）

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生態学会（Ecological Research，日本生態学会誌）

日本生物地理学会（Biogeography，日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本魚類学会（Ichthyological Research，魚類学雑誌）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology，藻類）

日本陸水学会（Limnology，陸水学雑誌）

日本地質学会（地質学雑誌）

日本古生物学会（Paleontological Research）

日本地学研究会（地学研究）
日本博物館協会（博物館研究）
全国科学博物館協議会（全科協ニュース）
国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）
日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Letters）
この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3．文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行なっており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成22年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、2,736冊である。

■研究報告など出版物の配布

2010年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告64号	481ヶ所	493冊	420ヶ所	423冊
自然史研究 3 巻11号	364ヶ所	375冊	178ヶ所	181冊
収蔵資料目録　第42集	238ヶ所	258冊	55ヶ所	56冊
展示解説　第41回特別展解説書	276ヶ所	290冊		
館報　34号	692ヶ所	709冊	11ヶ所	11部

展　覧　事　業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列がこれを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第１～第５展示室があり、平成13年４月にオープンした「花と緑と自然の情報 センター（略称：情報センター）」１階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター２階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

Ⅰ．常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、 分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということを、象徴的に展示している。

第１展示室「身近な自然」と第２展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第３展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。第４展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示している。締めくくりの第５展示室では、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活とどのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを展示している。

情報センター１階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという、市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石・岩石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に 関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成22年度には、下記の常設展示の更改・補修等を行った。

■ハンズオン展示等の補修（第５展示室）

平成18～19年度に、旧第4展示室と旧特別展示室を全面的に改修して、第５展示室「生き物のくらし」を開設した。この展示室では、標本のみによる展示では解説しきれない、生物間で見られるいろいろな現象やしくみを、映像やゲームを取り入れて、体感的にとらえられるよう工夫している。そのため、いわゆるハンズオンの部分も多く、どうしても展示物の傷みは、激しくなる。これまでも、そのつど小修理を繰り返してきたが、22年度には、「27Ａ　生き残るのは大変」「29Ｃ　たどりつける？生きのびられる？：島の生物地理学」「35　さまざまな環境を行き来する生き物」のコーナーについて、やや規模の大きな修理を行った。

Ⅱ．特別展

（１）当館が主催した特別展

■第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑―山と海をつなぐ生物多様性―」

淀川は、国の天然記念物であるイタセンパラの生息に見られるように、大都市を流れる河川でありながらも、豊かな生物多様性を擁してきた。一方で、河川管理や開発、人間活動、外来種の侵入などによって、淀川本来の自然が近年急速に失われつつある、という懸念も指摘されている。このような淀川流域の自然環境の現状をとらえるべく、博物館と友の会会員を中心とする市民とが2007年に淀川水系調査グループ『プロジェクトＹ』を結成し、水系内の自然環境調査を進めてきた。本特別展はプロジェクトＹの活動の集大成として位置づけ、この調査成果をもとに、淀川の今の姿が一目でわかる「大図鑑」をコンセプトとした展示を制作した。この展示を通して、都会に残された淀川という大自然と、私たちがそれをどのように守っていくべきかを提言した。

●**会　期**：平成22年７月24日（土）～10月８日（金）（当初予定は９月20日までだったが、会期延長した）

●**会　場**：大阪市立自然史博物館　ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター２階）

●**主　催**：大阪市立自然史博物館、大阪市立自然史博物館友の会・淀川水系調査グループ「プロジェクトＹ」、特定非営利活動法人大阪自然史センター

●**後　援**：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所、環境省近畿地方環境事務所、大阪府教育委員会

●**連携協力**：生物多様性条約第10回締約国会議支援実行

委員会、水草研究会、水道記念館

●助　成：日本財団

●観覧料：大人500円、高校生・大学生 300円。

●展示内容

1．淀川のあゆみ

・古琵琶湖の形成を語る化石
・琵琶湖淀川水系固有種
・巨椋池と三木茂博士採集水草標本
・オランダ人技術者による明治初期の淀川水制工設計図面（複製）
・「淀川改良工事」関係史料
・河川改修で流路をどう変える？博物館オリジナル「淀川クネクネシミュレータ」
・明治初期、明治末、1940年代、60年代、80年代、2000年代の地形図・空中写真による流域の景観の比較

2．淀川の自然と生き物

・「プロジェクトＹ」による生物分布調査結果と標本・生品
・1940年代と2000年代の庭窪ワンド群立体復元ジオラマ（縮尺1/800）（初公開）

3．集水域の自然と生き物

・「プロジェクトＹ」による生物分布調査結果と標本・生品

4．淀川が抱える問題

・淀川に侵入した様々な外来種の標本・生品
・ボタンウキクサのある時・ない時比較（プロジェクトＹメンバーによる手作り展示）

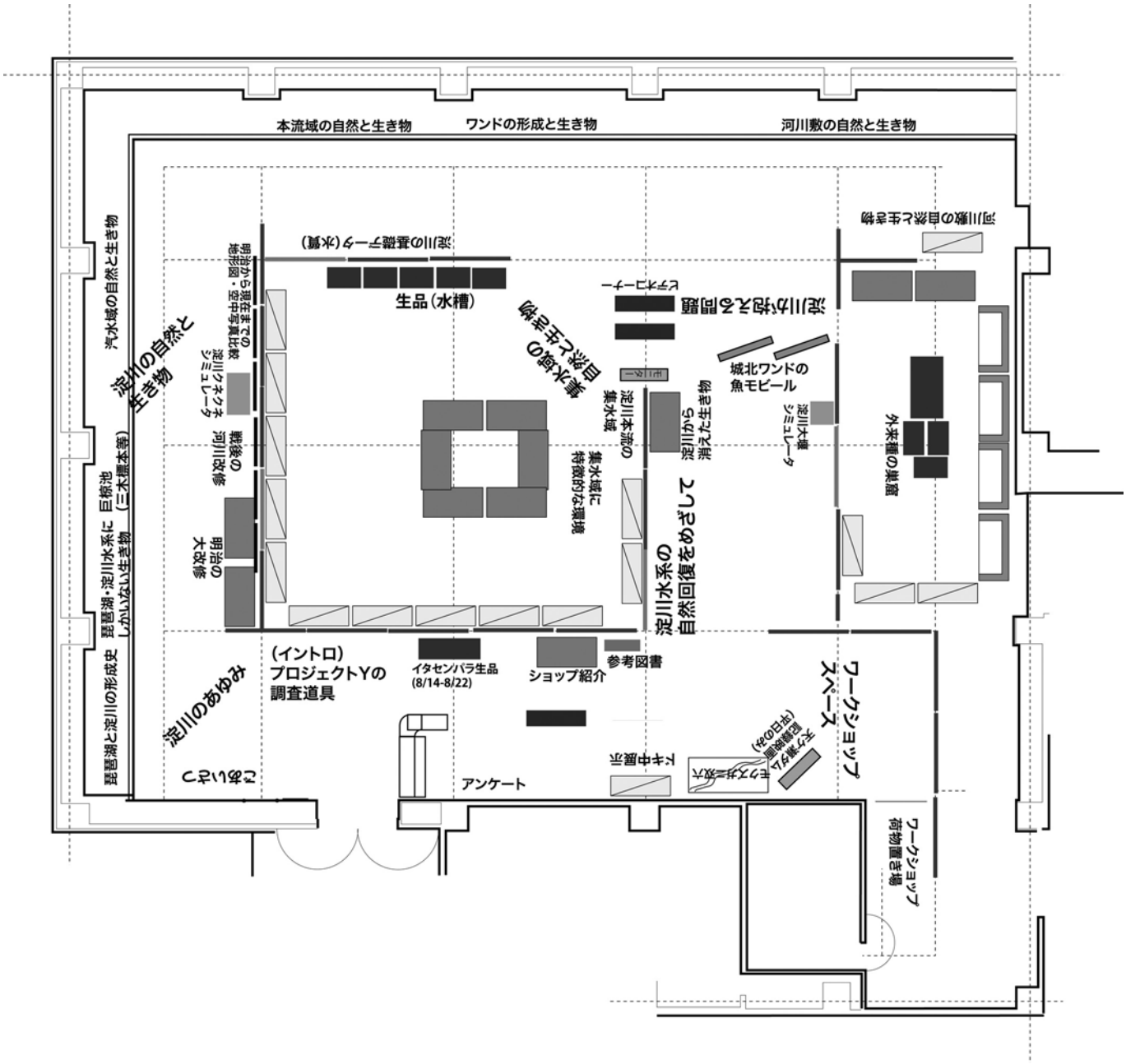


図１．特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」の配置図

図２．特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」のようす

・キミの手で氾濫原を取り戻そう！博物館オリジナル「淀川大堰シミュレータ」（初公開）
・河床低下を示す木津川旧御幸橋の橋脚実寸写真

５．淀川の自然回復をめざして

・淀川水系から消えた生き物
・淀川で行われている様々な自然回復事業
・プロジェクトＹおすすめ・淀川水系ホットスポット
・イタセンパラ水槽展示（8/14から8/22まで）

その他

・淀川水系藻屑蟹双六
・ビデオコーナー（記録映画「天ケ瀬ダム」、「市政ニュース・よみがえれ道頓堀川」、「淀川のシンボルフィッシュイタセンパラ」）

●展示見学ワークシート

多くの中学生や高校生に本展を見学してもらい、淀川の自然を考えてもらうきっかけとするため、展示見学ワークシートを作成し、流域の中学や高校に夏休み等の課題としての採用を依頼した。

採用校：27校
ワークシート提示の入場者数：1047名

●関連行事

・子どもワークショップ（会場はいずれも特別展会場内特設会場）

「つくろう！よどがワールド」

魚、貝、鳥にカエル、トンボ、水草…。淀川には楽しいいきものがいっぱい。会場の中にいるお気に入りのいきものを見つけて淀川の絵にかきこんで、みんなで大ずかんの１ページをつくろう。

開 催 日：８/７（土）、８（日）、28(土)、29(日)
開始時間：11：30、13：00、14：00、15：00（１回約45分間）

「なりきり　淀川のいきものたち」

淀川にすむいきもののお話をハカセが聞かせてくれるよ。教えてもらったいきものの気持ちになりきって、ハカセやみんなとお話をしてみよう。

開 催 日：７/31(土)、８/１（日）、９/４（土）、９/５（日）
開始時間：11：30、13：30、15：30（１回約60分間）

「おしえて！調査隊」

淀川のいきものを調べている人が展示室で調査道具をもってまっているよ。どんな道具が登場するかな？お話が聞けたら調査隊員からカードをもらってフィールドノートを完成させよう！！

開 催 日：８/14(土)、15(日)、21(土)、22(日)、９/18(土)、19(日)、20(月祝)
開始時間：11：00～3：20まで20分ごと

・特別展講演会

川の自然というと、私たちはつい目の前の流れだけに注目しがちである。しかし、川は本来、源流の山から河口の海までを連続的に、そして動的につなぐ自然環境である。川の自然を流域という俯瞰的な視点で眺め、考えることの重要性について、フィールドの第一線で活躍する研究者に講演していただいた。

日時：８月１日（日）午後１時30分から午後４時
場所：自然史博物館　講堂
講師・演題：
岸　由二氏（慶応義塾大学教授）
「小網代と鶴見川流域で考える生物多様性保全・都市再生」
竹門康弘氏（京都大学准教授）
「自然な川とは？河川における自然再生の目標像」

・自然史オープンセミナー・淀川シリーズ

特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」の開催にちなみ、プロジェクトＹの調査で明らかになったことや、展示内容に関連したテーマについて博物館学芸員や館外の共同研究者が話題提供した。

「淀川河口の生物」

講師：山西良平（大阪市立自然史博物館館長）
日時：６月19日（土）午後３時～４時30分
場所：自然史博物館　集会室

「化学成分からみた淀川の健康状態」

講師：中口 譲（近畿大学准教授）
日時：７月24日（土）午後３時～４時30分
場所：自然史博物館　集会室

「氾濫源の植物と琵琶湖・淀川水系の現状」

講師：藤井伸二（人間環境大学准教授）
日時：８月21日（土）午後３時30分～５時

場所：自然史博物館　講堂
※この回のセミナーは水草研究会の公開講演会として行われた。

「淀川水系の魚類と貝類」
講師：河合典彦（大阪市立大桐中学校教諭）
　　波戸岡清峰（動物研究室学芸員）
　　石田　惣（動物研究室学芸員）
日時：９月18日（土）午後３時～５時
場所：自然史博物館　集会室

（２）当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

■「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」
平成22年３月20日～５月30日　会期62日間
恐竜の起源は南半球であろうと考えられており、そこでの資料を抜きにしては恐竜進化について語ることはできない。また、恐竜の進化は超大陸パンゲアの分裂と同時代であったため、大陸分裂と深い関わりを持っている。本特別展の展示は、これらのテーマに基づく内容となっている。ティラノサウルスを始めとする、北半球の恐竜との比較もしつつ展示した。

●会　期：平成22年３月20日から５月30日（平成22年度　52日間）
●会　場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）
●主　催：大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社（二者で実行委員会を組織）
●観覧料：大人1200円、高校・大学700円。
●展示内容
１．プロローグ「大陸移動と恐竜の進化」
２．超大陸パンゲアの時代（三畳紀・ジュラ紀）～恐竜の出現
３．ゴンドワナ大陸の時代（白亜紀前期の恐竜）
４．ゴンドワナ大陸分裂の時代（白亜紀後期の恐竜）
５．エピローグ「日本の白亜紀の生き物たち」

●展示見学ワークシート
多くの高校生に本展を見学してもらい、恐竜を通して地球の歴史を考えてもらうきっかけとするため、大阪府立岸和田高校の寺戸教諭・奥野教諭の協力により展示見学ワークシートを作成し、大阪府高校地学教育研究会・生物教育研究会を通じて府下の350校の高校に春休み等の課題としての採用を依頼した。

●セレッソ大阪とのタイアップ企画
長居公園内の長居スタジアムを本拠地とするＪリーグセレッソ大阪と、以下のような共同企画を実施した。
・大恐竜展窓口で、セレッソ大阪の選手カード配布とＪリーグ割引券配布
・大恐竜展とＪリーグ観戦セット券販売
・Ｊリーグの試合ハーフタイムにおける大恐竜展告知と恐竜フィギアプレゼント

●関連行事
・親子ワークショップ（会場はいずれも実習室と特別展会場）
「親子でわくわく・レプリカ体験」
平成20年に開催した「ようこそ！恐竜ラボへ」展で好評だったワークショップで、「親も参加したい」との声が多かったために、親子で参加する型式に変更して実施した。
開催日：４/17(土)、18(日)、24(土)、25(日)、
　　５/１(土)、２(日)、８(土)、９(日)

・大恐竜展ナイトミュージアム with えほん
閉館後の会場で、学芸員による解説の他、絵本作家の宮西達也さんや読売テレビアナウンサーを招き、迫力ある恐竜標本の前で「きょうりゅう絵本」や「親子絵本」などの読み聞かせ会を実施しました。
開催日：４/10日(土)、５/15日(土)、22日(土)
　　時間はいずれも午後５時30分～７時
会　場：ネイチャーホール　大恐竜展会場内

・ギャラリートーク「恐竜たんけん隊」
本展に登場する恐竜たちや恐竜時代の環境をテーマに、会場内で学芸員によるギャラリートークを行った。
開催日：４/３(土)、10(土)、17(土)、24(土)、
　　５/１(土)、８(土)、15(土)、22(土)、
　　29(土)

・マプサウルス親子の絵本ひろば
恐竜絵本や親子で読む絵本を多数展示し、実際に手に取り、親子で絵本をご自由に楽しんでいただいた。
開催日：４/10日(土)、11日(日)
　　午前10時～午後４時30分
会　場：花と緑と自然の情報センター２階ギャラリー
また４月10日には、花と緑と自然の情報センター２階アトリウムにおいて午後３時～４時の間、絵本作家の宮西達也さんによる絵本の読み聞かせ会もあわせて実施した。

・木の実で＜恐竜クラフト＞つくりを楽しもう！
大阪森林インストラクターの協力で、木の実を使ったクラフト作成を楽しんでいただいた。
開催日：４/３(土)、４(日)
会　場：集会室・実習室

・きょうりゅう・ぬりえコンテスト
「大恐竜展」に登場する世界最大級の肉食恐竜マプサウルスの親子をセガで描いた台紙に、子どもた

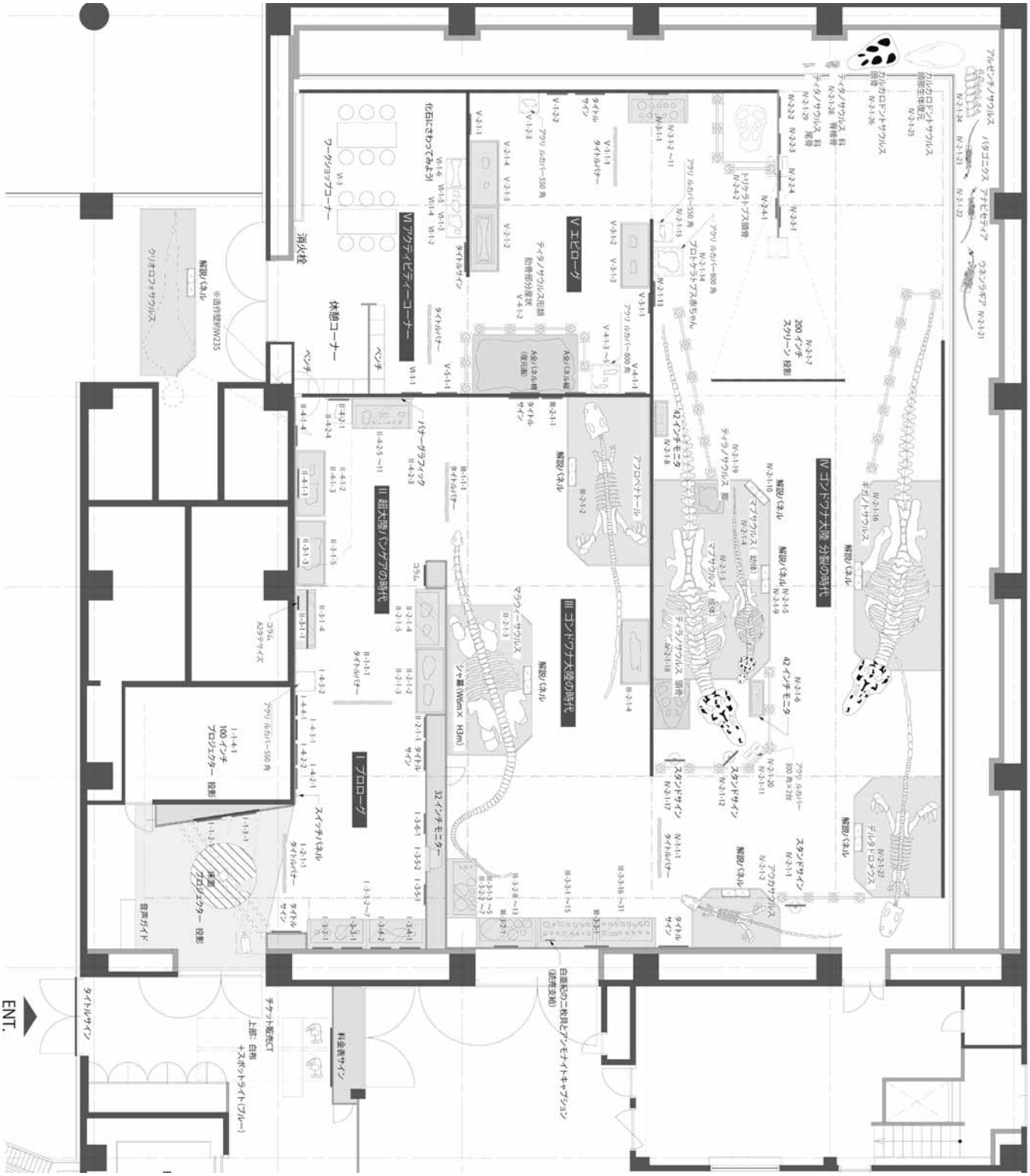


図 3．特別展「大恐竜展」の配置図

ちの楽しい発想でぬりえを楽しんでもらい、コンテスト参加者を募った。専用の台紙を会場内に設置したほか、ホームページからもダウンロードできるようにして、3月20日から4月18日まで募集したところ、5406点の応募があり、入賞者を決定した。入賞作品18点は審査結果発表後、会期終了まで会場内で展示した。

Ⅲ．特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

■特別陳列「三木 茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」

会期：平成22年7月24日(土)から10月31日(日)
会場：自然史博物館　本館2階　イベントスペース
主催：大阪市立自然史博物館、第3回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会、水草研究会
概要：当館で開催された「第3回国際メタセコイアシンポジウム」(8月3日から5日)と「水草研究会」(8月21日)の記念展示として行った。大阪市立自然史博物館に所蔵している三木茂博士の研究したメタセコイアの化石標本と水草標本を公開した。当初9月20日(月・祝)までの予定であったが、好評であり、秋の遠足で来館する児童・生徒に見てもらうために、会期を延長した。
展示構成：
(1) 三木博士の略歴
(2) 三木博士が研究した水草
(3) メタセコイアの化石
(4) 三木博士の研究の意義

Ⅳ.「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するようにしている。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためるとともに、土・日曜日用に、裏面に書き込みスペースのあるカードを印刷し配布している。

Ⅴ．その他

(1) 開館時間延長
3月から10月までの8ヶ月間の開館時間を30分延長し、午後5時閉館とした（入館は4時30分まで）。11月から2月までは、従来通り午後4時30分閉館（入館は4時まで）。
(2)「関西文化の日」の11月20日（土）ならびに21日（日）を無料開放とした。

普及教育事業

Ⅰ．各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（**印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している（*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

2007年度から、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連 携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体勢の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか、省略した。その詳細は展覧事業ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年に引き続き定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員したことにより、昨年より抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*，** 高槻市
4月25日　申込234名　参加者161名
「海べのしぜん」*，** 和歌山市
5月16日　申込361名（当選280名）
参加者145名
「はじめてのきのこ」*，** 東大阪市
6月27日　申込196名（当選124名）参加者74名
「ツバメのねぐら」* 宇治市
8月14日　申込80名　参加者36名
「バッタのオリンピック」** 橿原市藤原宮跡
9月26日　申込130名　参加者91名
「どんぐり」*，** 長居公園
10月24日　申込214名　参加者126名
「化石さがし」 泉佐野市
12月5日　申込325名（当選151名）
参加者127名
2月13日　申込76名　参加者55名
7テーマ　8回実施　延べ参加者数815名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。上半期には夏期に淀川に関連する特別展を開催することから、関連行事として淀川水系を中心に行事を開催した。

「猪名川・藻川の河口域」 伊丹市
5月2日　申込74名　参加者58名
「上牧：淀川の水路めぐり」 高槻市
7月4日　申込53名　雨天中止
「泉南のため池めぐり」 熊取町
10月10日　申込67名（当選50名）　参加者35名
3テーマ　2回実施　のべ参加者数93名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「早春のカエルさがし」 猪名川町
4月11日　申込227名（当選45名）　雨天中止
「大峰山に3億年の歴史を探る」** 吉野町
5月23日　申込63名（当選25名）　参加者17名
「京都の植生観察5－上賀茂－」 京都市
5月30日　申込46名　参加者42名
「山で暮らすカエルさがし」* 島本町
6月6日　申込61名　参加者39名
「高槻のカエル探し」 高槻市
6月20日　申込87名（当選42名）　参加者31名
「街のキノコ」* 長居公園
7月10日　申込45名　参加者35名
「照葉樹林のキノコ」 高槻市
7月11日　申込43名　雨天中止
「芥川でセミの羽化＆ライトトラップ」 高槻市
7月18日　申込39名　参加者27名

「雑木林のキノコ」*　堺市
　9月11日　　申込30名　　参加者22名
「川と水田の植物」　高槻市
　9月12日　　申込41名　　参加者29名
「地層を見る」　京田辺市
　10月31日　　申込53名（当選38名）　参加者22名
「川西市・多田神社周辺の地質観察」**　川西市
　11月28日　　申込65名　　参加者46名
「大阪湾の水鳥１」*　西宮市
　12月５日　　申込35名　　参加者21名
「大阪湾の水鳥２」*　阪南市・泉南市
　12月12日　　申込29名　　参加者19名
　　14テーマ　12回実施　のべ参加者数824名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」
　４月10日　　申込16名　　参加者14名
「キノコ標本づくり・顕微鏡観察」**
　５月22〜23日　申込27名　　参加者24名
「昆虫標本の作り方」*
　８月１日　　申込109名（当選73名）　参加者51名
「ホネの標本作製講座」
　８月22日　　申込51名（当選37名）　参加者28名
「樹脂包埋標本の作製」*
　10月11日　　申込18名　　参加者12名
「地層を考える」
　10月30日　　参加者42名
「解剖で学ぶイカ・タコの体のつくり」*
　２月20日　　申込20名　　参加者18名
「魚のからだ」
　２月27日　　申込13名　　参加者13名
「裸子植物」*
　３月６日　　申込21名　　参加者15名
　　９回実施　のべ参加者数217名

■野外実習

野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかなど、より分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解を寄り深める行事。普及行事の中では上級向け。

「植物の標本づくり」**
　８月15日　　申込32名　　参加者18名
　　１回実施　のべ参加者数18名

■長居植物園案内*

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。６・12月に昆虫研究室、動物研究室の学芸員と共に、植物と昆虫・鳥の関係についてみる観察会も実施した。

　４月３日　　参加者89名
　５月１日　　参加者65名
　６月５日（昆虫）　　参加者77名
　７月３日　　参加者22名
　８月７日　　参加者42名
　９月４日　　参加者45名
　10月２日　　参加者50名
　11月６日　　参加者62名
　12月４日（鳥）　　参加者66名
　１月８日　　参加者86名
　２月５日　　参加者62名
　３月５日　　参加者70名
　　12回実施　のべ参加者数736名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ることで、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。原則として毎月第３土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」*
　４月24日　　参加者53名
「街で繁殖する鳥」*
　５月22日　　参加者39名
「大池の生き物」
　６月26日　　雨天中止
「セミの羽化のかんさつ」*
　７月17日　　参加者589名
「夏の昆虫」
　８月28日　　参加者53名
「秋の渡り鳥」*
　９月25日　　参加者44名
「秋の渡り鳥2」*
　10月23日　　参加者36名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」
　11月６日　　参加者34名
「冬越しの虫」
　12月24日　　参加者37名
「冬の鳥の食べ物」*
　１月29日　　参加者46名

「冬の鳥の食べ物2」*
　2月26日　参加者45名
「鳥の羽根拾い」*
　3月19日　参加者37名
11回実施　のべ参加者数1013名

■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。特定のテーマを体系的に学習してもらうために3～4回のシリーズ企画のものや、当館学芸員の研究成果などをテーマにしたものもある。一部には外部講師も招いている（(　)内に講師名)。当館集会室で原則として毎月第1土曜日の午後3時～4時30分に開催。

「淀川水系の水鳥・カメ・カエル」
　4月17日　参加者37名
「淀川水系の甲虫・アメンボ」
　5月15日　参加者36名
「淀川河口の生物」
　6月19日　参加者39名
「化学成分からみた淀川の健康状態」(中口　譲氏)
　7月24日　参加者48名
「氾濫原の植物と琵琶湖・淀川水系の現状」
(藤井伸二氏)
　8月21日　参加者127名
「淀川水系の魚類と貝類」(河合典彦氏)
　9月18日　参加者87名
「地質を見るにはどこを見る？　1．地層の調べ方」
　10月16日　参加者47名
「地質を見るにはどこを見る？
　2．地層から火山活動を想像する」(佐藤隆春氏)
　11月27日　参加者34名
「地質を見るにはどこを見る？
　3．地質構造の調べ方」
　12月18日　参加者44名
「愛知県伊良湖岬で南下移動する昆虫」
　1月15日　参加者41名
「大阪湾のキタフナムシ」
　2月19日　参加者22名
「生き物の名前」
　3月19日　参加者33名
12回実施　のべ参加者数595名

■ジオラボ*

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。一部には外部講師も招いている（(　)内に講師名)。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の中では初・中級向け。

「植物化石」
　4月10日　参加者68名
「鹿沼土のひみつ」
　5月8日　参加者23名
「海の砂・川の砂　海の石ころ・川の石ころ」
　6月12日　参加者32名
「ミクロの化石」
　7月10日　参加者39名
「石ころ調べ」
　8月7日　参加者38名
「砂つぶいろいろ」
　9月11日　参加者28名
「メタセコイア」
　10月9日　参加者15名
「石の重さを比べてみよう」
　11月13日　参加者31名
「地層の中のしま模様」
　12月11日　参加者18名
「水が関わる土の強さ」(三田村宗樹氏)
　1月8日　参加者28名
「火山のミニチュアを見る」(佐藤隆春氏)
　2月12日　参加者56名
「断層を調べてみよう」
　3月12日　参加者39名
12回実施　のべ参加者数415名

■夏休み自由研究相談会*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、といった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受け付けた。

日　時：7月25日（日）
場　所：自然史博物館　ミュージアムサービスセンター
相談件数：26件（事前申込17件、当日受付9件）

■標本の名前をしらべよう－標本同定会－**

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。本年度は8月29日に実施した。

件　数：95件、参加者数：137名（ただし、件数については、同一の参加者が複数分野に申し込んだ場合、

重複して数えている。参加者数は実数）

なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（７月25日）も開催している。

■音楽と自然の夕べ

ファミリー層を主体とした市民に、自然に触れ、親しんでもらう機会を作ることを目的として、大阪市音楽団による演奏と自然史博物館学芸員のミニトークの実施を企画した。大阪市における文化施策と教育の連携事業として実施した。大阪市の博物館・美術館など８施設（大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪市立美術館、天王寺動物園、大阪城天守閣、大阪歴史博物館、大阪市立近代美術館（仮称）心斎橋展示室、大阪市立自然史博物館）が共同で行うキャンペーンイベント、「ミュージアムウィークス大阪2009」の期間に合わせて実施した。

日　時：10月16日（土）
会　場：博物館本館　玄関ポーチ
内　容：「生き物のにぎわい～生物多様性」
　　佐久間大輔（植物研究室）
　　大阪市音楽団によるコンサート
参加者：800名

■講演会・シンポジウム

学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

1．日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム
　５月８日（土）　66名
2．地球科学講演会「大阪の温泉は本当に温泉か？－大阪平野の地下水を可視化する－」
　５月９日（日）　163名
3．講演とトーク「ふじつぼサロン」―あなたをフジツボ漬にする午後－
　５月23日（日）103名
4．わかったつもりを問い直す－生物多様性って何？
　６月６日（日）　109名
5．普及講演会「メタセコイアと地球環境の歴史」
　７月31日（土）　64名
6．2010年代のための里山シンポジウム－どこまで理解できたか、どう向き合っていくか－
　10月30日（土）・31日（日）　250名
7．近畿の昆虫の自然史～山本博子さんを偲んで～
　３月13日（日）　103名

■ジュニア学芸員になろう！*

３日間連続の実習。昨年度からタイトルを変更し、対象も小学5年生～中学生に広げて実施している。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い、結果をまとめ、展示として作成した。本年度は特別展に関連して、１日目に高槻市・摂津峡周辺で調査行い、２・３日目に博物館でその調査成果をまとめ、展示を作成し、特別展会場で展示を行った。「植物（ツルヨシ）」、「昆虫（カメムシ）」「地学（河原の石の種類と大きさ）」の３テーマのうち、希望に基づいて取り組んでもらった。自分の目と手で調べた調査を展示として作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらうプログラムとしても位置付けている。

７月31日（土）～８月２日（土）
申込15名　参加者10名

■はくぶつかん・たんけん隊*

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学。普段は見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。昨年度からタイトルを変更し、対象もこれまでの小学生から小学生～中学生に広げた。本年度は申込が多かったため、両日とも午前・午後の部を設け、合計４回実施した。また、参加者の家族（保護者・未就学児）向けに、参加者とは別枠でバックヤードショートツアーを行った。

１月９日(日)～10日（月）
申込223名　参加者172名

■ジュニア自然史クラブ*

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年２月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒の行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラ

ブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2011年３月31日現在の部員数は89名。

●2010年度の活動内容

当初は、２ヶ月に１度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング」	４月６日	28名
「ほしだ園地で昆虫採集＆ハヤブサの巣観察」	５月９日	16名
「磯観察」	６月13日	雨天中止
「猪名川」	７月13日	12名
「ミーティング」	８月13日	21名
「秋の干潟のシギ・チドリ観察」	８月24日	11名
「きのこ狩り」	９月12日	17名
「大文字山」	10月３日	15名
「植物化石」	12月19日	12名
「鵜殿」	１月５日	16名
「雪のフィールドサイン探し」	２月13日	14名
「カスミサンショウウオ観察」	２月20日	16名
「淀川の早春の植物観察」	３月30日	17名

企画13回、実施12回、参加者数のべ195名

■ビオトープ

バックヤードを利用して、ビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査している。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第三土曜日に実施した。

４月17日	参加者22名
５月15日	参加者78名
６月19日	参加者22名
７月17日	参加者39名
８月21日	参加者35名
９月18日	参加者21名
10月16日	参加者36名
11月20日	参加者19名
12月18日	参加者14名
１月15日	参加者18名
２月19日	参加者26名
３月19日	参加者43名

12回実施　のべ参加者人数　373名

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年度から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展関連のものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。原則的に毎月１度の土日に実施している。普及行事の中では、初級向け。

2007年度より、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15〜20名募集し、研修を実施したうえで、２ヶ月に１回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを製作、３月の「ボランティア祭り」において実施してもらった。

特別展関連行事として実施したワークショップについての詳細は展覧事業30ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

「クジラスタンプラリー」
４月29日　参加者450名
「砂・つぶ・すな絵」
６月26日・27日　参加者108名
「紙しばい　ナガスケものがたり」
10月９日・10日・11月６日・７日　参加者741名
「メロンのふるさと じゃがいものふるさと」
12月11日・12日・１月15日・16日　参加者162名
「くねくねタコ・イカ」
２月26日・27日　参加者110名
「ボランティアまつり」
３月26日・27日　参加者282名

38回実施　のべ参加者数2,730名（特別展関連含む）

■その他の普及教育事業

博物館での学会の開催などに伴って、これまで示したジャンルにとらわれない普及行事が実施される。以下に、それらを一括して示す。

「メタセコイアの見学会」
７月24日　申込28名（当選25名）　参加者24名
「長居植物園のメタセコイア観察会」
７月31日　参加者48名
「ナガスケ絵本読み聞かせ」
10月17日　参加者162名
「菌類生態学講座」
１月23日　申込72名　参加者65名

「大人のアート押し花ワークショップ」
3月20日　申込20名　参加者15名
「ナガスケ紙芝居」
3月20日　参加者444名
「大人の海藻押し葉ワークショップ」
3月27日　申込20名　参加者18名

Ⅱ．教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、対象は学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げて実施している。

*印は大阪府高等学校生物教育研究会の後援をうけて実施した。また**印は（財）科学博物館後援会の全国科学博物館活動助成事業をうけて実施した。

「植物園案内・春の遠足下見編」
4月8日・9日　参加者26名・14名
「火山灰　野外編1」
5月16日　申込18名　参加者10名
「火山灰室内編1」
6月27日　申込18名　参加者10名
「都市のコケ」　*
8月6日　申込18名　参加者16名
「火山灰　室内編2」
8月8日　申込12名　参加者11名
「学校の地下の地層」
8月10日・11日
申込7名　参加者6名（両日とも）
「標本作ってホネを知る」*
8月20日　事前申込28名　当日参加者24名
「岩石の見分け方」
8月24日・25日
申込16名　参加者13名（両日とも）
「学校の地下の地層（簡略版）」
10月10日　申込3名　参加者3名
「淡水プランクトンの採集と同定」*,**
11月28日　申込20名　参加者18名
「冬越しの虫」
12月12日　申込9名　参加者7名
「スルメイカの解剖実習」*
2月19日　申込8名　参加者6名

Ⅲ．博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の23大学、のべ43名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏　期：9月1日～9月5日　20名

山口　好・田口五基（京都橘大学）、武田希土花（神戸大学）、清田有里（大阪成蹊大学）、井上奈緒子（大阪芸術大学）、藤田典子（愛知県立芸術大学）、岡本彬子（八洲学園大学）、金銅郁圭（東海大学）、菊池佐和子（京都女子大学）、田頭青葉・菅　友里子（追手門学院大学）、餘家希実（大阪府立大学）、中矢光駿（高知大学）、熊野翔太・中井香奈（滋賀県立大学）、山下修平（静岡大学）、舟越晃太（近畿大学）、泉　恵美・南出実里・廣畑寛和（大阪教育大学）

秋　期：10月20日～24日　20名

亀崎南帆・鮫島翔太・笹井隆秀（琉球大学）、永田優子・藤田哲也・高木瑠美・矢敷沙也加（神戸大学）、東田麻衣子・初田幸穂（京都府立大学）、種村英大（八洲学園大学）、竹内義宏（追手門学院大学）、脇村圭・西山　舞・石橋優一（大阪府立大学）、晄　竜二（和歌山大学）、中島　静（滋賀県大学）、田中真子（龍谷大学）、阪口巨基（大阪教育大学）、生田優希（奈良女子大学）、高橋一葉（金沢大学）

普及教育専攻コース

夏　期：7月29日～8月2日　3名

安松貞夫（京都教育大学）、山地菜央（大阪芸術大学）、林　真由美（鹿児島大学）

Ⅳ．各種研修

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となって

おり、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

Ⅴ．学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

１．体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ１名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

２．連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

＜児童・生徒向け事業＞

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の２種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の３種類がある。特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」では、中学生・高校生向きのワークシートを作成し、夏の課題として学校へと案内した。これにより、特別展の高校生の来館増に結びついた。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている。（長居植物園は除く）。

2010年度は小学校７件、中学校３件、高校１件、大学３件、合計14件の授業を行った。

2010年度の授業例：「虫の体と暮らし、擬態」、「恐竜発掘と、そこから分かること」、「大阪平野のおいたち」、「紅葉の不思議」、「淀川水系の魚類」など。

・学校からの自然に関する質問への対応

自然に関する質問に関しては常時対応しているが、学校のグループやクラスでの質問の場合には、事前に連絡をしてもらい、専門分野の学芸員が対応する体制を準備している。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2010年度は、大阪府内の中学校４件（５人）を受け入れた。この他に職業体験に関するインタビューが３件あった。

＜先生向け事業＞

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。

配布している資料

団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2010年度は、博物館の出版物９件、ビデオ・ＣＤ－ＲＯＭ・ＤＶＤ35件、標本キット９件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、

図４．ナガスケ紙芝居

博物館叢書シリーズなど。

ビデオ・ＣＤ－ＲＯＭ・ＤＶＤ：蝶・蛾の世界、昆虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、セミ、テントウムシ、ドングリなど。

「ナガスケ」紙芝居セット：平成22年度「全国科学系博物館活動等助成」（財団法人科学博物館後援会）を受けて、博物館玄関前ポーチのクジラを紹介した「ナガスケ」紙芝居セットを貸出資料として作成した。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方、自然観察会の指導をしている方を対象に研修を行っている。2010年度は15回開催した（39ページ参照）。これら以外に、小中学校の先生を対象とした13件の教員研修を行った。また、大阪府の新任教員研修の一環として、社会体験の受け入れを１件行った。

・情報誌「TM 通信」の発行と TM ネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的とした TM ネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。112名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM 通信」を４回発行した。

＜その他＞

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物教育研究会および地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2010年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科（地理・歴史・公民）・理科（第２分野）の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本会１階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・ＣＤ－ＲＯＭ・ＤＶＤなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

Ⅵ．大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は１～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に52回の行事を実施し、延べ2,775名（2009年度は2,527名）の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

１．2010年度の友の会会員数は1,755名（１年会員1,508名、４月会員87名、半年会員87名、10月会員30名、賛助会員43名であった。2008年度は1,761名。

※2010年度賛助会員（五十音順、敬称略）

麻野　浩、浅葉　清、浅井　彪、天野遼平、石井久夫、石田　律、浦野動物病院、大岩　誠、大内和太郎、大久保源志郎、大宮文彦、尾崎　彗、加藤江理子、河﨑紗織、川端優太、小郷一三、小林芙佐子、小山　栄、白川勝正、高橋明子、高橋弘

志、瀧川久子、田邊一三、田村芙美子、寺田雅章、時枝奉之、永井敦子、中島満晴、西尾秀雄、西川喜朗、西田良司、西村静代、野村典子、樋渡諦児、福西勝之、益田晴恵、宮川五十雄、宮武頼夫、山下良寛、山西良平、山本　章、和田　岳、匿名１名

2．５回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。

3．事業ワーキンググループで10回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは評議員だけでなく、一般会員からも募っている。

4．評議員として、橘高加奈子さん、小林春平さん、藤江隼平さん、宮崎智美さん、山崎俊哉さんが新たに加わった。

■事業報告

1．印刷物の刊行：Nature Study 誌56巻１号（通巻668号）～12号（通巻679号）を発行した。また２月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。

2．橿原昆虫館虫祭り（６月６日）に出展し、セミ大声大会の実施、友の会の紹介、入会の案内を行った。

3．日本自然保護機構　市民調査全国会議（東京）に出展し、友の会の活動紹介をした。

4．水都大阪2010・リバリバ大阪（10月３日～５日）に出展し、「水辺の自然教室」コーナーの開設と友の会の紹介、入会案内を行った。

5．大阪バードフェスティバル（11月20～21日）に出展し、ビオトープ案内とシュロ工作コーナーの開催、友の会の紹介、入会の案内を行った。

6．行事を52回実施した。延べ2,775名の参加があった。

（１）友の会総会2010　１月31日（日）　204名

（２）月例ハイキング（11回849名）

１月17日（日）奈良公園をくまなく歩く　103名
２月21日（日）有馬温泉源泉巡り　60名
３月14日（日）海藻を食べよう　86名
４月18日（日）春の鵜殿のヨシ原を散策しよう　76名
５月16日（日）田んぼのカエル探し　79名
６月19日（土）淀川でライトトラップ　43名
７月18日（日）箕面でキノコ探し　69名
８月21日（土）ウミホタルを見よう　93名
９月19日（日）まほろばの里散策と橿原市昆虫館見学　53名
11月23日（火・祝）奈良公園南部から春日山の山すそを歩く　111名
12月19日（日）箕面川で川の生き物を探そう　76名

（３）友の会秋まつり

「石器を作って、みんなで原始人」
10月11日（月・祝）プレイベント
「石器を作るサヌカイトを集めよう」　89名
10月17日（日）
「石器を作って、みんなで原始人」　120名

（４）友の会限定！収蔵庫見学ツアー

２月７日（日）　55名
２月11日（木・祝）　62名

（５）友の会の夕べ

８月１日（日）　52名

（６）友の会合宿

６月19日（土）
「種子島合宿」事前学習会　46名
６月26日（土）－27日（日）
昆虫採集入門講座合宿「京都北山」　56名
８月６日（金）－８日（日）
「種子島」　82名

（７）靭公園のセミのぬけがら調べ

９月５日（日）　56名

（８）博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム

９月18日（土）－19日（日）　100名

（９）シカの声を聞きながらナイトハイク

９月26日（日）　36名

（10）長居公園のタヌキ観察会

10月23日（土）　46名

（11）海の向こうの見聞録発表会

12月26日（月）
「海の向こうの見聞録発表会」　109名
「友の会懇親会」　128名

（12）裏庭ビオトープの日（12回403名）

１月16日（土）　33名
２月20日（土）　32名
３月20日（土）　52名
４月17日（土）　22名
５月15日（土）　78名
６月19日（土）　22名
７月17日（土）　39名
８月21日（土）　35名
９月18日（土）　21名
10月16日（土）　36名
11月20日（土）　19名
12月18日（土）　14名

（13）プロジェクトＹ関連・班別研修会（13回158名）

１月23日（土）　甲虫班　11名
３月21日（日）　魚班　９名

3月22日（月・祝）甲虫班　5名
3月27日（土）　甲虫班　8名
4月4日（日）　発表会　32名
4月11日（日）　植物班　10名
4月18日（日）　プラナリア班　12名
4月29日（木・祝）甲虫班　7名
5月5日（水・祝）鳥班　12名
5月16日（日）　植物班　3名
5月20日（木）　甲虫班　2名
7月11日（日）　展示作成　18名
7月17日（日）　展示作成　29名

（14）鳥類フィールドセミナー（12回314名）
1月16日（土）　31名
1月30日（土）　27名
2月20日（土）　27名
3月6日（土）　17名
4月18日（日）　44名
5月1日（土）　25名
5月15日（土）　40名
7月31日（土）　22名
9月18日（土）　28名
10月16日（土）　27名
11月27日（土）　13名
11月28日（日）　13名

■役員

会　　長：西川喜朗
副 会 長：谷田一三、山西良平
評 議 員：板本瑶子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代貢、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、堀田　満、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森　康貴、山崎俊哉、米澤里美
会計監査：加納康嗣、左木山祝一

広　報　事　業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

＜体制＞

定例では月１回、必要に応じて臨時に、学芸課（５名）と総務課（３名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの１名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

＜広報の種類（項目、媒体）＞

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、特別展の開催を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
大阪市内広報掲示板へのポスター掲示	特別展の際には応募し、当選すれば掲示している。Ｂ２縦またはＢ３横のポスターが750部掲示できる。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。
	公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいため、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
	最寄り駅：最寄り駅である地下鉄長居駅改札口付近に、毎月のイベントを掲出している。特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、Ｂ１ポスターを掲出している。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している。
ゆとりとみどり振興局文化部での広報	文化部で作成された、８館・園のパンフレット（日・英・韓・中の４カ国語）を館内で配布している。また、文化部の博物館群担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。情報提供先：ＭＢＳラジオ“馬場章夫の大阪大発見”、FMCOCORO“OSAKA CITY INFORMATION”、CATV“大阪元気印！”、大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、毎日新聞「満載イベント」編、ミュージアムウィークス８onポスター
大阪市博物館協会内での共同広報	指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪城天守閣・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の６施設で共同広報を行っている。文化財協会の機関誌へのチラシの同封、大阪歴史博物館のロビーでの当館特別展の広報、大阪歴史博物館の特別展の館内掲示など。

＜広報先＞

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	作成したチラシ類や催し物案内を博物館施設、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市内の小中学校に対しては逓送便を活用している。特別展に関しては、日帰り圏内の博物館施設、大阪府内・大阪市内の図書館・社会教育施設に送付している。
地元小学校への広報	イベントの種類によっては、小学生をもつ地元の家庭への広報として、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。全生徒配布は、東住吉区・住吉区の２区の場合と東住吉区・住吉区・阿倍野区の３区の場合、東住吉区・住吉区・阿倍野区、平野区の４区の場合がある。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元町内会への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会（東住吉区、住吉区、阿倍野区）へ特別展のチラシの掲示依頼、町内会長、女性部長宛の内覧会招待状の配布依頼を行っている。
地元商店街への広報	地元の商店街や商店には、特別展ポスターの掲示依頼、割引券の配布依頼を行っている。

＜2010年度の広報状況＞

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内190件、大阪府内195件、その他の府県370件。施設種類：博物館、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋（40,000枚）、ワークショップ３回（101,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」（ポスターＢ２ 2,900枚、Ｂ３ 3,000枚、チラシ60,000枚）、メタセコイアシンポ（15,000枚）、音楽と自然のひろば（25,000枚）、大阪バードフェスティバル2010（ポスターＢ２ 1,600枚、チラシ60,000枚）、毎月の催し物案内（2,000枚）
情報提供しているメディア関係	約194社（特別展関係100、行事情報94）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪市内区役所広報24区
テレビ放送（特別展以外）	6／5　ＮＨＫテレビ「ダーウィンが来た！」ナガスクジラ骨格標本に巣をつくるスズメについて 8／5　読売テレビ「ズームインスーパー」動物の骨に関する取材 8／9　関西テレビ「メイドインカンサイ」オリジナルポスター制作のため、第2展示室の恐竜骨格標本撮影 9／6　朝日放送「ニューズゆうプラス　響紀行・蝉時雨」セミ標本、鳴き声音源取材 10/12　朝日放送「おはよう朝日土曜日　ゆれ知恵ックコーナー　秋の花粉症」について植物に関する取材 10/15　読売テレビ「かんさい情報ネットTen」鳥類に関する取材 11/5　四国放送テレビ　おはようとくしまプラス「きょうはどこ行こ」三木町の紹介で三木茂博士を紹介 12/19　ＮＨＫテレビ　ＮＨＫスペシャル「邪馬台国を掘る」桃の木に関する取材 4/25　ＮＨＫＢＳ「シリーズ若沖ミラクルワールド」木村蒹葭堂の貝類標本について

＜特別展の広報＞

■特別展「大恐竜展」

会期　３月20日（土）～５月30日（日）

プレス発表：2010年１月７日

内　覧　会：2010年３月19日

プレス内覧会：23社（関西テレビ、読売新聞、ＮＨＫ大阪放送局、ラジオ大阪、共同通信、文一総合出版、現代ビジネスプラン、読売ライフ、ぴあ、読売オンライン、140Ｂ、タウン新聞、うぶすな企画、ポテトチップス、芦屋倶楽部、サンケイリビング新聞、うえまち新聞、陸風社、ラジオ関西、日本経済新聞、情熱の赤いバラ協会、JOBBBインターネットラジオ、ベイ・コミュニケーションズ）

一般内覧会：466名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）

広　報　媒　体：161の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ９、ラジオ２。

■第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑－山と海をつなぐ生物多様性」

会期　７月24日（土）～10月８日（金）

プレス発表：2010年５月18日
内　　覧　　会：2010年７月23日
プレス内覧会：９社（読売新聞、　ラジオ関西、　C-workの現代ビジネスプラン、大阪日日新聞、読売オンライン関西発動画「よーみて」、WEB媒体「関西アートストリーム」、月刊大阪人、ＪＯＭすみよし、雑誌「RikaTan」）
※産経新聞は24日に来館
一般内覧会：158名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）
広　報　媒　体：63の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ３、ラジオ３。

■特別陳列「三木茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」

会期　７月24日（土）～10月31日（日）

プレス発表：2010年５月26日
広報媒体：20の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ０、ラジオ１。

*は館外研究者、[No.　] は当館業績番号。

■研究報告（Bulletin of the Osaka Museum of Natural History）

第65号、2011年3月31日発行、100ページ。

山西良平：大阪湾新記録のキタフナムシの形態的特徴について―北海道産キタフナムシおよび大阪湾産フナムシとの比較―（英文）．1-8．[No. 423]

鈴木寿之*・陳　義雄*：田中茂穂博士により記載されたヨシノボリ属３種．9-24．[No. 424]

渋川浩一*・鈴木寿之*・瀬能 宏*：琉球列島から得られた日本初記録のハゼ科３種．25-38．[No. 425]

安井通宏*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班：淀川水系調査流域におけるミズギワゴミムシ相と分布状況．39-76．[No. 426]

坂根　健*・伴さやか*：大阪府高槻市周辺に発生した冬虫夏草．77-89．[No. 427]

松橋義隆*・樽野博幸：大阪市西成区太子から産出した中期更新世の長鼻類切歯化石．91-100．[No. 428]

■自然史研究（SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History）

第３巻第11号，2010年12月28日発行，８ページ．

花﨑勝司*・波戸岡清峰：大和川水系・石川の魚類の現状－2004年～2006年－．159-166．[No.422]

■収蔵資料目録

第43集「大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録（１）－ゲンゴロウ科，コミムシダマシ科，ナガクチキムシ科－」Ｂ５版。全208ページ。2011年３月31日発行。

■常設展解説書

展示解説第14集「第５展示室　生き物のくらし」
一般市民向け、Ｂ５版、本文60ページ。平成23年３月31日発行。300円。

■特別展解説書

第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑　山と海をつなぐ生物多様性」
一般市民向け、Ｂ５縦版、本文113ページ。平成22年７月24日発行。1000円。

連携（ネットワーク）

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

〔ミッション３〕
地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。
博物館活動のパートナーとなるＮＰＯやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。
（中期的目標）
・学校・地域との連携事業など市民との交流をＮＰＯと協働して進めます。
・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。
〔ミッション４〕
他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。
広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。
（中期的目標）
・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、連携によって多様な相乗効果を生んでいることを挙げることができる。

ミッション３に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

高校生物研究会など

・大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2010年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も100名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動して いる。当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、自然史標本救済に関するネットワークの立ち上げの準備、博物館展示リニューアルに関するワークショップ、研究発表会と講演「2010年代の自然史系博物館を求めて」、プラスティック封入標本作成講座、100円ショップグッズを使った自然観察と展示講座など。（2010. 1. 1〜2010.12.31）

Ⅰ　沿　　革

昭和24年11月８日－自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年４月１日－自然科学博物館費予算に計上
昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下にて展示開設
昭和27年４月17日－博物館相当施設に指定
昭和27年６月２日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
昭和27年７月10日－博物館法第10条により登録（第２号）
昭和27年10月１日－筒井嘉隆　館長に就任（39．7．4退任）
昭和32年６月７日－市立美術館より西区靱２丁目（元靱小学校校舎改造）に移転
昭和33年１月13日－開館
昭和34年　－新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
昭和39年　－日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
昭和39年８月１日－筒井嘉隆　館長に就任（非常勤嘱託－40．7.31退任）
昭和40年８月１日－千地万造　館長に就任（58．6．1退任）
昭和42年　－大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
昭和44年８月　－新館建設のための基本構想審議委員会組織
昭和45年４月　－自然史博物館建設委員会組織
昭和47年１月21日－自然史博物館建設工事着工
昭和48年３月31日－自然史博物館建設工事竣工
昭和48年４月１日－旧館閉館
昭和48年７月　－新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年３月）
昭和49年４月１日－大阪市立自然史博物館条例公布
昭和49年４月26日－自然史博物館開館式挙行
昭和49年４月27日－開館
昭和51年８月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第２条第４号に規定する学術研究機関として指定
昭和58年７月１日－千地万造　館長に就任（非常勤嘱託－61．3．31退任）
昭和59年６月　－常設展更新基本計画案策定
昭和60年３月　－常設展更新計画書策定
昭和61年３月31日－常設展更新業務完成
昭和61年４月１日－新装開館
昭和61年４月１日－小川房人　館長に就任（兼務－２．3.31定年退職）
昭和61年４月１日－千地万造　顧問に就任（非常勤嘱託－２．３.31退任）
平成 2年４月１日－小川房人　館長に就任（非常勤嘱託－３．３.31退任）
平成２年度　－文化施設整備構想調査
平成３年４月１日－小川房人　顧問に就任（非常勤嘱託－５．３.31退任）
柴田保彦　館長兼学芸課長に就任（４．３.31定年退職）
平成３・４年度　－自然史博物館整備構想調査事業
21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
平成４年４月１日－柴田保彦　館長に就任（非常勤嘱託－7．3.31定年退職）
平成７年４月１日－宮武頼夫　館長に就任（９．３.31定年退職）
平成７年度　－自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
平成８年度　－展示更新基本計画及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討
平成９年４月１日－宮武頼夫　館長に就任（嘱託－10．3.31退職）
平成９年度　－展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
平成10年４月１日－那須孝悌　館長に就任（13.3.31定年退職）
平成10年12月　－花と緑と自然の情報センター建築工事着工
平成13年３月　－花と緑と自然の情報センター竣工
平成13年４月１日－那須孝悌　館長に就任（非常勤嘱託）
平成13年４月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行
花と緑と自然の情報センター開館
平成17年４月１日－山西良平　館長に就任
平成18年３月１日－本館リニューアルオープン
平成18年４月１日－指定管理により（財）大阪市文化財協会が指定管理者となる
平成19年３月24日－第５展示室一部リニューアルオープン
平成20年４月26日－第５展示室全面リニューアルオープン
平成22年４月１日－財団統合により（財）大阪市博物館協会が指定管理者となる。

Ⅱ．組　織

■職 員 数　（平成22年４月１日現在）　計26名

館長(1)―副館長(1)
- （兼）総務課長――事務職員(6)
- 総務課長代理(1)
- 係主査(1)――嘱託職員(2)
- 学芸課長(1)――主任学芸員(4)――学芸員(8)
  - 学芸課長代理(1)

■職員名簿（平成22年４月１日現在）

職　名	氏　名	職　種	氏　名
館長	山西良平	学芸課長	樽野博幸
副館長兼総務課長	西田麗子	学芸課長代理	川端清司
総務課長代理	能美和幸	主任学芸員	金沢　至
係主査	美川真一	〃	波戸岡清峰
事務職員	高橋郁子	〃	塚腰　実
〃	加藤由紀子	〃	初宿成彦
〃	釋　知恵子	学芸員（動物）	和田　岳
〃	大久保和子	学芸員（植物）	佐久間大輔
〃	松岡由布	学芸員（四紀）	石井陽子
〃	長縄朋子	学芸員（四紀）	中条武司
嘱託職員	竹村勇治	学芸員（昆虫）	松本吏樹郎
〃	西嶋正博	学芸員（植物）	内貴章世
		学芸員（動物）	石田　惣
		学芸員（植物）	志賀　隆

■人事異動

平成22年４月１日　西田　麗子　副館長兼総務課長に大阪市職員より
　　能美　和幸　総務課長代理に大阪市職員より
　　西嶋　正博　嘱託職員に　ゆとりとみどり振興局営繕担当より
平成22年７月１日　大久保和子　大阪文化財研究所へ転出
　　美濃部尚子　事務職員　大阪市博物館協会総務部より転入
平成22年９月30日　内貴　章世　大阪市退職
平成23年３月31日　美川　真一　花博記念公園事務所へ転出
　　美濃部尚子　退職
　　竹村　勇治　退職

Ⅲ．庶務日誌

■平22年度　博物館関係者来訪

22．5.21　Korea Productivity Center（韓国の学校長の団体）
　　学校向け事業、子どもプログラムについて
22．6.16　タイ大使館＜理科教員＞
　　展示物の見学、学校向け事業について
22．8．3～ 4
　　第３回国際メタセコイア学会シンポジウム
　　館内見学
22．9．2　山口県立山口博物館
　　学校向け事業、博物館と地域の連携について
　　台北芸術大学（博物館学）
　　博物館と市民活動のかかわりについて
22．9．5　日韓菌学会シンポジウム
　　館内見学
22．9.14　韓国子ども博物館
　　東京国立博物館
　　子どもプログラム、展示について
22.11.13～14
　　日本甲虫学会
　　館内見学
23．1.26　アメリカ・ロッキー博物館
　　特別展開催の会場視察、館内見学

■館長受嘱委員（～平成23年３月31日）

全国科学博物館協議会　理事
　平成19年４月１日～平成20年３月31日
近畿地方整備局　淀川河川事務所　淀川環境委員会委員
　平成20年４月１日～平成23年３月31日
財団法人　大阪科学技術センター　評議員
　平成21年４月１日～平成24年３月31日
財団法人　日本博物館協会　理事
　平成20年６月10日～平成24年３月31日
兵庫県立人と自然の博物館　協議会委員
　平成19年10月８日～平成23年10月７日
大阪府文化財保護審議会委員
　平成20年１月19日～平成24年１月18日
独立行政法人国立科学博物館評議員
　平成21年４月１日～平成23年３月31日
兵庫県・貴重な野生生物（生態系）専門委員会委員
　平成22年４月１日～平成23年３月31日

Ⅳ. 決　算

■平成20年度～平成22年度

（単位　千円）

		事　項	平成20年度 決 算	平成21年度 決 算	平成22年度 決 算
歳入	第1部	入館料ほか	23,986	20,675	31,841
		雑収（展示解説等売却代）	1,538	2,283	2,733
		国庫補助金	0	0	0
	第1部計		25,524	22,958	34,574
	第2部	府補助金	0	0	0
	第2部計		0	0	0
	第1部・第2部　合計		25,524	22,958	34,574
歳出	第1部	常設展覧事業	1,745	1,877	2,088
		特別展覧事業	16,340	10,263	21,762
		調査研究事業	9,291	11,476	9,867
		資料収集保管事業	2,629	8,211	4,342
		普及教育事業	4,984	4,834	5,289
		充実活性化事業	2,112	2,282	3,289
		一般維持管理費	330,589	306,643	302,134
		小計	367,690	345,586	348,771
	第2部	館蔵品整備事業	0	0	0
		寄贈標本整理事業	0	0	0
		デジタルミュージアムの推進事業	0	0	0
		施設整備事業等	0	0	0
		収蔵庫設備整備事業	0	0	0
		小計	0	0	0
	第1部・第2部　合計		367,690	345,586	348,771

Ⅴ．入館者数（平成22年度）

■本館常設展入館者数

区分／月	有料					無料								計	開館日数
	個人		団体		有料計	団体					個人		無料計		
	大人	高校生大学生	大人	高校生大学生		幼・保育園等	小学生	中学生	特別支援学校等	団体引率者	中学生以下	優待・招待・その他			
(22) 4	4,646	248	148	155	5,197	327	5,910	60	14	414	4,430	3,074	14,229	19,426	26
5	8,632	517	71	178	9,398	2,098	11,099	915	397	1,266	5,597	2,832	24,204	33,602	26
6	2,351	153	107	92	2,703	510	1,204	593	123	254	1,604	1,032	5,320	8,023	26
7	2,695	326	75	65	3,161	618	88	189	11	125	2,557	1,180	4,768	7,929	27
8	4,693	942	147	0	5,782	0	0	42	3	10	4,768	1,524	6,347	12,129	26
9	3,066	160	17	0	3,243	121	1,015	44	19	117	2,466	1,199	4,981	8,224	26
10	2,806	264	49	433	3,552	996	10,228	336	139	839	2,203	1,484	16,225	19,777	27
11	3,001	105	436	44	3,586	924	1,622	889	39	301	1,872	19,345	24,992	28,578	25
12	1,154	248	35	0	1,437	107	126	72	16	34	1,139	677	2,171	3,608	23
(23) 1	2,345	262	44	0	2,651	149	203	65	86	125	1,945	761	3,334	5,985	23
2	2,548	95	42	0	2,685	328	251	261	11	80	2,098	1,042	4,071	6,756	24
3	3,106	188	597	33	3,924	1,535	132	426	133	301	5,116	2,265	9,908	13,832	27
計	41,043	3,508	1,768	1,000	47,319	7,713	31,878	3,892	991	3,866	35,795	36,415	120,550	167,869	306

■本館常設展無料団体観覧内訳（平成22年度）

区分	市内		市外		計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
幼稚園・保育所	107	5,275	51	2,438	158	7,713
小学校	127	10,308	231	21,570	358	31,878
中学校	46	1,811	38	2,081	84	3,892
特別支援学校・他	8	147	14	404	22	551
福祉施設	42	202	9	238	51	440
団体引率者		1,705		2,161		3,866
計	330	19,448	343	28,892	673	48,340

■特別展入館者数（平成10年度～平成22年度）

区分／年度	個人 大人	個人 高校生大学生	個人 優待・他無料	個人 中学生以下無料	団体 大人	団体 高校生大学生	団体 中学生以下他無料	合計	開催期間	日数	タイトル
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～ 9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～ 5.27	28	50周年だよ!標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6. 9～ 7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8. 4～ 9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10. 6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12. 8～ 1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～ 3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～ 5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7. 6～ 9. 1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11. 4	45	目で見る「がん」展
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～ 8.31	50	日本鳥の巣図鑑
	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～ 2. 1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート 2
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4. 1～ 5.30	44	いきもの図鑑　牧野四子吉の世界
	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～ 9. 5	44	貝ーその魅力とふしぎ
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～ 9. 4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10. 8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～ 3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4. 1～ 6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～ 9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12. 7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～ 5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7. 4～ 8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11. 3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～ 3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4. 1～ 5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10. 8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展

Ⅵ. 施設の利用状況

■会議室　平成22年度　87件

年月日	団体名	人数
22. 4. 3	メタセコイアシンポ	
22. 4. 4	大恐竜展クラフト作りスタッフ	
22. 4. 10	鳥の調査の勉強会	14
22. 4. 11	昆虫情報処理研究会	12
22. 4. 12	大恐竜展ヨミティ	
22. 4. 18	鳥類フィールドセミナー	44
22. 4. 29	WS サポートスタッフ	
22. 5. 8	日本鱗翅学会	19
22. 5. 9	地球科学講演会準備	
22. 5. 22	友の会評議員会	20
22. 5. 23	大阪湾見守りネット	12
22. 5. 29	野尻湖花粉グループ	
22. 5. 30	大和川市民ネットワーク	
22. 6. 1	自然史センター会議	5
22. 6. 6	メタセコイアシンポ	8
22. 6. 8	WS 研修	10

年月日	団体名	人数
22. 6. 12	甲虫学会大会実行委員会	7
22. 6. 13	自然史センター会議	5
22. 6. 16	連携ワーキンググループ	
22. 6. 26～27	WS サポートスタッフ	9
22. 7. 2	名古屋環境局視察	7
22. 7. 10	大阪湾見守りネット	15
22. 7. 11	なにわホネホネ団	
22. 7. 24	WS サポートスタッフ	25
22. 7. 31	鳥の調査の勉強会	10
22. 8. 1	WS	2
22. 8. 3～ 5	メタセコイアシンポ	14
22. 8. 7～ 8	WS	7
22. 8. 12	WS サポートスタッフ研修	10
22. 8. 14～15	WS	10
22. 8. 18	日本鳥学会事務局会議	5
22. 8. 20～21	水草研究会	

年　月　日	団　体　名	人数
22.　8. 22	WS	9
22.　8. 25	連携ワーキンググループ	
22.　8. 28	WS	8
22.　8. 29	標本同定会	
22.　8. 31	NEXCO	
22.　9.　2	甲虫学会	5
22.　9.　3	実習	
22.　9.　4～ 5	WS	9
22.　9.　7	自然史センター会議	5
22.　9.　9	水辺ネットワーク	
22.　9. 18～20	WS	15
22. 10.　2	鳥の調査の勉強会	7
22. 10.　9～11	WS サポートスタッフ控え室	10
22. 10. 21	やさしい自然観察会どんぐり	
22. 10. 23～24	やさしい自然観察会どんぐり	
22. 11.　6	自然写真講座実習	19
22. 11.　7	WS サポートスタッフ控え室	7
22. 11. 12～14	甲虫学会	170
22. 11. 20～21	バードフェスティバル	
22. 11. 27	自然写真講座	19
22. 12.　2	甲虫学会	5
22. 12.　4	自然史センター理事会	13
22. 12.　5	大阪湾海岸生物	7
22. 12. 11～12	WS サポートスタッフ	5
22. 12. 18	大阪湾見守りネット	12
22. 12. 19	近畿植物同好会	
22. 12. 21	GBIF 無脊椎動物 DB 会議	8
22. 12. 23	昆虫情報処理研究会	13
23.　1.　8	鳥の調査の勉強会	5
23.　1.　9～10	WS サポートスタッフ	8
23.　1. 15～16	WS サポートスタッフ	12
23.　1. 18	自然史センター	
23.　1. 22	自然史センター	10
23.　1. 26	近畿植物同好会	
23.　1. 29～30	友の会総会	249
23.　2.　1	自然史センター会議	5
23.　2.　5	ハチ研究会	
23.　2.　6	近畿植物同好会	
23.　2. 12	鳥の調査の勉強会	2
23.　2. 13	昆虫情報処理研究会	15
23.　2. 19	ビオトープ	
23.　2. 20	WS ボランティア祭り	1
23.　2. 24	甲虫学会	4
23.　2. 26～27	WS サポートスタッフ	27
23.　3.　2	近畿植物同好会	
23.　3.　4	高校生物教育研究会	12
23.　3.　5	室内実習準備	3
23.　3. 10	甲虫学会	4
23.　3. 13	野尻湖友の会	
23.　3. 16	WS ボランティア祭り	10
23.　3. 18	WS ボランティア祭り	3
23.　3. 23	WS ボランティア祭り	4
23.　3. 24	甲虫学会	4
23.　3. 25	WS ボランティア祭り	16
23.　3. 26～27	WS サポートスタッフ	27

※館内の会議・作業等の利用は割愛しています。

■集会室　平成22年度　　97件

年　月　日	団　体　名	人数
22.　4.　1～ 2	遠足下見説明会	105
22.　4.　3	植物園案内スタッフ	
22.　4.　4	プロジェクト Y 発表会	32
22.　4.　6～ 9	遠足下見説明会	583
22.　4. 10	ワークショップサポートスタッフ研修	30
22.　4. 11	プロジェクト Y 植物班	11
22.　4. 14	大阪インターナショナルスクール	22
22.　4. 17	ビオトープ	23
	自然史オープンセミナー	37
22.　4. 18	関西菌類談話会	
22.　5.　1	植物園案内スタッフ	
22.　5.　8	ジオラボ準備	
	大恐竜展 Yorimo	
22.　5. 12	自然史センター生物多様性	
22.　5. 15	鳥類フィールドセミナー	40
	自然史オープンセミナー	36
22.　5. 21	大阪私学理科教育研究会	22
22.　5. 23	野尻湖友の会	
22.　5. 30	大和川市民ネットワーク	
22.　6.　2	自然環境市民大学	27
22.　6.　6	生態学会	
22.　6.　9	府立高校学校緑化研究部	
22.　6. 16	タイからの理科教員研修	35
22.　6. 19	種子島合宿説明会	46
	自然史オープンセミナー	39
22.　6. 20	地学団体研究会	
22.　7.　9	大阪市立天満中学校	25
22.　7. 10	大阪鳥類研究グループ	42
22.　7. 11	プロジェクト Y 植物班	
	地学団体研究会	
22.　7. 13	大阪中等教育学校	20
22.　7. 17	プロジェクト Y	30
22.　7. 23	みんなでつくる淀川大図鑑プレス内覧会	10
22.　7. 24	救命救急研修	30
	自然史オープンセミナー	50
22.　8.　1	昆虫標本作製講座	52
	友の会	59
22.　8.　3～ 5	メタセコイアシンポ	
22.　8. 18	大阪市教育センター研修	37
22.　8. 20～21	水草研究会	
22.　8. 24～27	遠足下見説明会	133
22.　8. 28～29	標本同定会	172
22.　8.31～9.　3	遠足下見説明会	193
22.　9.　4	実習	
	友の会評議員会	25
22.　9. 18	鳥類フィールドセミナー	28
22.　9. 23	大阪湾見守りネット総会	35
22.　9. 27	西日本自然史系博物館ネットワーク	15
22.　9. 30	外部評価委員会	
22. 10.　2	甲虫学会	29
22. 10.　5	学芸ゼミ	
22. 10.　7	シニア自然大学	
22. 10.　8	守口市教育研究会	10
22. 10. 13	大阪市幼稚園環境研究部	47
22. 10. 15	シニア自然大学	
22. 10. 16	大阪市音楽団	
22. 10. 17	友の会秋祭り	
22. 10. 19	シニア自然大学	
	みんなでつくる淀川大図鑑内部評価	
22. 10. 22	実習	

年　月　日	団　体　名	人数
22. 10. 23	長居のタヌキの観察会	46
22. 10. 24	やさしい自然観察会　どんぐり	
22. 10. 30	室内実習　地層を考える	43
22. 11. 6〜 7	子どもワークショップサポートスタッフ控え室	7
22. 11. 7	ジュニア自然史クラブ	16
22. 11. 12〜14	甲虫学会	170
22. 11. 20〜21	大阪バードフェスティバル2010	117
22. 11. 23	高校生物教育研究会　生徒生物研究発表会	
22. 11. 27	自然史オープンセミナー	36
22. 12. 4	植物園案内スタッフ	
22. 12. 5	関西トンボ談話会	35
22. 12. 11	甲虫学会	35
22. 12. 18	自然史オープンセミナー	45
22. 12. 23	プロジェクトＹ甲虫班	4
22. 12. 25	しだとこけ談話会	26
23. 1. 8	はくぶつかんたんけん隊研修	
23. 1. 9〜10	はくぶつかんたんけん隊	194
23. 1. 15	自然史オープンセミナー	42
23. 1. 16	近畿植物同好会	
23. 1. 22	鳥類フィールドセミナー	29
23. 1. 29〜30	友の会総会	249
23. 2. 1	大阪市教育委員会　理科支援	
23. 2. 6	関西トンボ談話会	35
23. 2. 10	甲虫学会	5
23. 2. 11	友の会バックヤードツアー	63
23. 2. 13	大阪湾海岸生物研究会	44
23. 2. 19	鳥類フィールドセミナー	21
	自然史オープンセミナー	22
23. 2. 20	野尻湖友の会	
23. 2. 27	大阪石友会	
23. 3. 6	近畿植物同好会	
23. 3. 12	鳥類フィールドセミナー	26
23. 3. 19	自然史オープンセミナー	33
23. 3. 20	大阪鳥類研究グループ	26
23. 3. 25	ボランティアまつりミーティング	15
23. 3. 26	甲虫学会例会	25
23. 3. 27	関西トンボ談話会	33

■実習室　平成22年度　122件

＊の印は旧実習室を利用

年　月　日	団　体　名	人数
22. 4. 3〜 4	木の実で恐竜クラフト作り	193
22. 4. 4	＊なにわホネホネ団	13
22. 4. 6	ジュニア自然史クラブ	32
22. 4. 10	ジオラボ準備	
22. 4. 13	ワークショプスタッフ研修	10
22. 4. 17〜18	ワークショップ　レプリカ作り	110
22. 4. 23〜24	ワークショップ　レプリカ作り	111
22. 4. 29	なにわホネホネ団	50
22. 5. 1〜 2	ワークショップ　レプリカ作り	125
22. 5. 3	なにわホネホネ団	15
22. 5. 8〜9	ワークショップ　レプリカ作り	117
22. 5. 15	ビオトープ	80
22. 5. 21	韓国　Productivity Center	31
22. 5. 22〜23	キノコ標本　顕微鏡	31
22. 5. 30	なにわホネホネ団	52
22. 6. 5	植物園案内スタッフ	
22. 6. 6	NACS-J	
	＊なにわホネホネ団	
22. 6. 12	ジオラボ準備	

年　月　日	団　体　名	人数
22. 6. 14〜16	モニタリングサイト1000	1
22. 6. 19	ビオトープ	25
22. 6. 26	なにわホネホネ団	29
22. 6. 27	教員向け火山灰実習　室内編	11
22. 7. 3	植物園案内スタッフ	
22. 7. 10	ジオラボ準備	
22. 7. 11	なにわホネホネ団	41
	*プロジェクトＹ水草班	
22. 7. 17	ビオトープ	41
	プロジェクトＹ水草班	31
22. 7. 21	滋賀県理科実験助手　火山灰実習	
22. 7. 25	自由研究相談会	27
22. 7. 29	博物館実習	3
22. 7.31〜8. 2	ジュニア学芸員になろう	18
22. 8. 3〜 5	メタセコイアシンポ	
22. 8. 6	都市のコケ	20
22. 8. 7	植物園案内スタッフ	
22. 8. 8	教員向け火山灰実習	11
22. 8. 10〜11	地下の地層	6
22. 8. 13	ジュニア自然史クラブ	24
22. 8. 14	ジオラボ準備	
	*ハチ研究会	
22. 8. 15	なにわホネホネ団	34
22. 8. 17	大阪市教育センター研修	22
22. 8. 20	教員向け「標本を作ってホネを知る」	24
22. 8. 21	ビオトープ	36
	水草研究会	
22. 8. 22	室内実習「ホネの標本製作講座」	49
22. 8. 24〜25	岩石の見分け方	14
22. 8. 28〜29	標本同定会	172
22. 9. 1〜 5	博物館実習	80
22. 9. 4	*植物園案内スタッフ	
22. 9. 11	ジオラボ準備	
22. 9. 18	ビオトープ	24
22. 9. 18〜19	ナイトミュージアム	100
22. 9. 20〜23	なにわホネホネ団	87
22. 10. 2	植物園案内スタッフ	
	*甲虫学会運営委員会	10
22. 10. 8	大阪市教育センター研修	9
22. 10. 9	ジオラボ準備	
22. 10. 10	学校の地下の地層	4
22. 10. 11	室内実習「樹脂包埋の作成」	16
22. 10. 16	鳥類フィールドセミナー	27
22. 10. 16〜17	友の会秋祭り	138
22. 10. 19	環境省近畿地方環境事務所	20
22. 10. 20〜24	博物館実習	80
22. 10. 24	*やさしい自然観察会どんぐり	155
22. 10. 30	室内実習　地層を考える	43
22. 10. 31	なにわホネホネ団	40
22. 11. 2	箕面植物同好会	
22. 11. 6	植物園案内スタッフ	
22. 11. 6	*ハチ研究会	
22. 11. 7	樹脂包埋	14
22. 11. 12〜15	甲虫学会	170
22. 11. 20〜21	大阪バードフェスティバル2010	
22. 11. 27〜28	プランクトン実習	23
22. 11. 29	なにわホネホネ団	6
22. 12. 4	大阪自然環境保全協会	30
22. 12. 11	ジオラボ準備	
	*甲虫学会	170

年　月　日	団　　体　　名	人数
22. 12. 12	ハチ研究会	
	*プロジェクトＹ甲虫班	4
22. 12. 18	ビオトープ	
22. 12. 21	*渡りチョウを調べる会	16
22. 12. 23〜25	なにわホネホネ団	73
22. 12. 26	海の向こうの見聞録	128
23. 1. 8	ジオラボ準備	
	植物園案内スタッフ	
23. 1. 9〜10	はくぶつかんたんけん隊	194
23. 1. 12	近畿植物同好会	
23. 1. 15	ビオトープ	19
	*大阪湾見守りネット	12
23. 1. 16	近畿地学	
23. 1. 18	シニア自然大学	35
23. 1. 19	近畿植物同好会	
23. 1. 23	なにわホネホネ団	33
23. 1. 26	シニア自然大学	30
23. 1. 29〜30	友の会総会	249
23. 2. 1	シニア自然大学	30
23. 2. 2	近畿植物同好会	
23. 2. 5	植物園案内スタッフ	
	*なにわホネホネ団	24
23. 2. 6	友の会バックヤードツアー	58
23. 2. 9	近畿植物同好会	
23. 2. 10	ジオラボ準備	
23. 2. 11	友の会バックヤードツアー	63
23. 2. 12	ジオラボ準備	
23. 2. 16	近畿植物同好会	
23. 2. 18〜20	イカタコ実習	36
23. 2. 23	近畿植物同好会	
23. 2. 26	アサギマダラを調べる会	29
23. 2. 27	室内実習「魚のからだ」	13
23. 3. 2	近畿植物同好会	
23. 3. 5	植物園案内スタッフ	
23. 3. 6	室内実習　裸子植物	19
23. 3. 9	近畿植物同好会	
23. 3. 12	ジオラボ準備	
23. 3. 13	なにわホネホネ団	38
23. 3. 16	近畿植物同好会	
23. 3. 19	ビオトープ	45
23. 3. 20	双翅目談話会	
23. 3. 25〜27	万葉押し花倶楽部	
23. 3. 26	*甲虫学会運営委員会	7

■講堂　平成22年度　　48件

年　月　日	団　　体　　名	人数
22. 4. 10	地球環境大学	150
22. 4. 10	大恐竜展ナイトミュージアム	108
22. 4. 24	地球環境大学	150
22. 4. 30	大阪狭山市立南第二小学校	183
22. 5. 8	日本鱗翅学会	66
22. 5. 9	地球科学講演会	166
22. 5. 15	大恐竜展ナイトミュージアム	90
22. 5. 21	門真市立速見小学校	125
22. 5. 22	地球環境大学	150
	大恐竜展ナイトミュージアム	121
22. 5. 23	フジツボ講演会	90
22. 5. 29	地球環境大学	150
22. 6. 6	KONC 多様性	120
22. 6. 12	地球環境大学	150
22. 6. 26	地球環境大学	150
22. 7. 1	関西大学	
22. 7. 24	救命救急研修	30
22. 7. 31	メタセコイア普及講演会	64
22. 8. 1	特別展講演会	78
22. 8. 3〜 5	メタセコイアシンポジウム	60
22. 8. 20〜21	水草研究会	
22. 9. 5	日韓菌学会シンポジウム	100
22. 9. 11	地球環境大学	150
22. 9. 18	自然史オープンセミナー	87
22. 9. 23	大阪湾生き物一斉調査報告会	100
22. 9. 25	地球環境大学	150
22. 10. 8	大阪市立三軒家西小学校	54
22. 10. 9	地球環境大学	150
22. 10. 13	高取町立たかむら小学校	65
22. 10. 16	自然史オープンセミナー	48
22. 10. 17	友の会の秋祭り	134
22. 10. 21	大阪市立本田小学校	96
22. 10. 23	地球環境大学	150
22. 10. 26	智辯学園奈良カレッジ　中学部	164
22. 10. 30〜31	2010年代のための里山シンポジウム	200
22. 11. 12〜14	甲虫学会	170
22. 11. 20〜21	大阪バードフェスティバル2010	323
22. 11. 23	高校生物教育研究会　生徒生物研究発表会	200
22. 12. 26	海の向こうの見聞録	109
23. 1. 9 〜10	はくぶつかんたんけん隊	194
23. 1. 23	菌類生態学講座	70
23. 1. 29〜30	友の会総会	249
23. 2. 6	友の会バックヤードツアー	58
23. 2. 11	友の会バックヤードツアー	63
23. 2. 12	関西菌類談話会	100
23. 3. 13	近畿の昆虫の自然史	104
23. 3. 16	帝塚山中学校	383
23. 3. 21	関西自然保護機構大会	53

■イベントスペース　平成22年度　1 件

年　月　日	団　　体　　名
22. 7.24〜 9.20	三木茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本

■ネイチャーホール　平成22年度　5 件

年　月　日	団　　体　　名
22. 3.20〜 5.30	特別展「大恐竜展」
22. 7.23〜10. 8	特別展「みんなでつくる淀川大図鑑」
22.10.16	大阪ヘルスジャンボリー
22.11.20〜11.21	大阪バードフェスティバル2010
23. 3.25〜 3.27	万葉押し花倶楽部

Ⅶ. 施　設

自然史博物館本館

■ **所 在 地**　大阪市東住吉区長居公園１番23号
■ **敷地面積**　6,743.68㎡
■ **建築面積**　4,392.67㎡
■ **延床面積**　7,066.01㎡
■ **構　　造**　鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下１階、地上３階

■ **主要各室面積・天井の高さ**

			（天井の高さ）
（展示用施設）	計	2427.48㎡	
ナウマンホール		550.35㎡	11.00m
第１展示室		360.55㎡	3.30m
第２展示室		486.64㎡	7.20m
第３展示室		403.10㎡	4.70m
第５展示室		360.55㎡	4.20m
２階ギャラリー		266.29㎡	6.80m
（研究用施設）	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各	18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各	47.56㎡	2.40m
第四紀・外来研究室	各	36.54㎡	2.40m
生物実験室		49.20㎡	2.40m
化学分析室・サーバー室	各	18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室		37.43㎡	2.70m
動物標本制作室		37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本制作室	各	36.54㎡	2.40m
化石処理室		47.56㎡	2.40m
石工室		22.21㎡	2.70m
展示品製作室		28.05㎡	2.70m
第１収蔵庫		207.09㎡	3.00m
第２収蔵庫		310.08㎡	3.00m
第３収蔵庫		207.09㎡	3.00m
第４収蔵庫		310.08㎡	3.00m
書　　庫		100.30㎡	7.40m
編集記録室		36.54㎡	2.40m
（普及教育用施設）	計	604.27㎡	
講堂（映写室・控室含む）		319.09㎡	2.60m（平均）
ミュージアムサービスセンター		93.30㎡	2.70m
集会室		95.12㎡	2.70m
旧実習室		96.76㎡	2.70m
（管理用施設）	計	907.49㎡	
館長室		36.54㎡	2.70m
１階部屋		18.27㎡	2.70m
事務室		83.34㎡	2.70m
応接室		29.54㎡	2.70m
休憩室		16.85㎡	2.55m
警備員室		17.64㎡	2.70m
会議室		47.56㎡	2.70m
機械室		472.35㎡	5.85m
電気室		89.92㎡	5.85m
自家発電気室		49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室		28.05㎡	2.40m
（共通部分）	計	1,323.95㎡	
１階廊下		118.27㎡	2.70m
２階廊下		102.29㎡	2.40m
ロッカールーム		60.59㎡	2.85m
エレベーターホール（荷物用）		123.16㎡	
ファンルーム（南・北側）		各16.80㎡	
荷捌室		161.69㎡	2.70m
玄関ホール		125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベーター		7.00㎡	
倉　庫		106.56㎡	
１階ホール便所		76.26㎡	
２階ホール便所		37.56㎡	
管理棟便所		43.47㎡	
ダクトスペース		102.70㎡	
階　段		179.30㎡	
その他		46.40㎡	
	総計	7,066.01㎡	

■ **階数別面積**

地階…… 855.07㎡　　３階……550.95㎡
１階…… 3,178.35㎡　　屋階…… 76.93㎡
２階…… 2,404.71㎡

■ **各室定員**

講　堂…… 266人　　集会室…… 48人
会議室…… 22人　　旧実習室…… 31人
展示室（１階）415人　　展示室（２階）400人
地　階…… 3人

■ **工　　期**　昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ **総事業費**　10億1,000万円
（建設工事費）　7億9,500万円
・本体工事（㈱竹中工務店）　4億9,200万円
・付帯工事　3億 300万円
（設計監督委託料）　2,700万円
（その他）　3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費
ネットフェンス設置工事費等
（内部設備費）　1億5,000万円
・第１展示室ディスプレイ
（㈱日展）　2,200万円
・第２展示室ディスプレイ
（㈱乃村工芸社）　2,500万円

・第３展示室ディスプレイ
（㈱丹青社）　2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ
（㈱電電広告）　600万円
・展示品購入費　3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、
資料保管用物品等　4,400万円

■　**国庫補助金・起債**

・国庫補助金
3,000万円（47. 10. 13付交付決定）
・起　債
3億8,762万円（47.　8. 25付交付決定）

花と緑と自然の情報センター

■　**所 在 地**　大阪市東住吉区長居公園１番23号
■　**敷地面積**　1,203.81㎡
■　**建築面積**　1,203.81㎡
■　**延床面積**　5,000.00㎡
■　**構　　造**　鉄骨鉄筋コンクリート造
地下１階、地上２階塔屋付建物
■　**主要各室面積・天井の高さ**

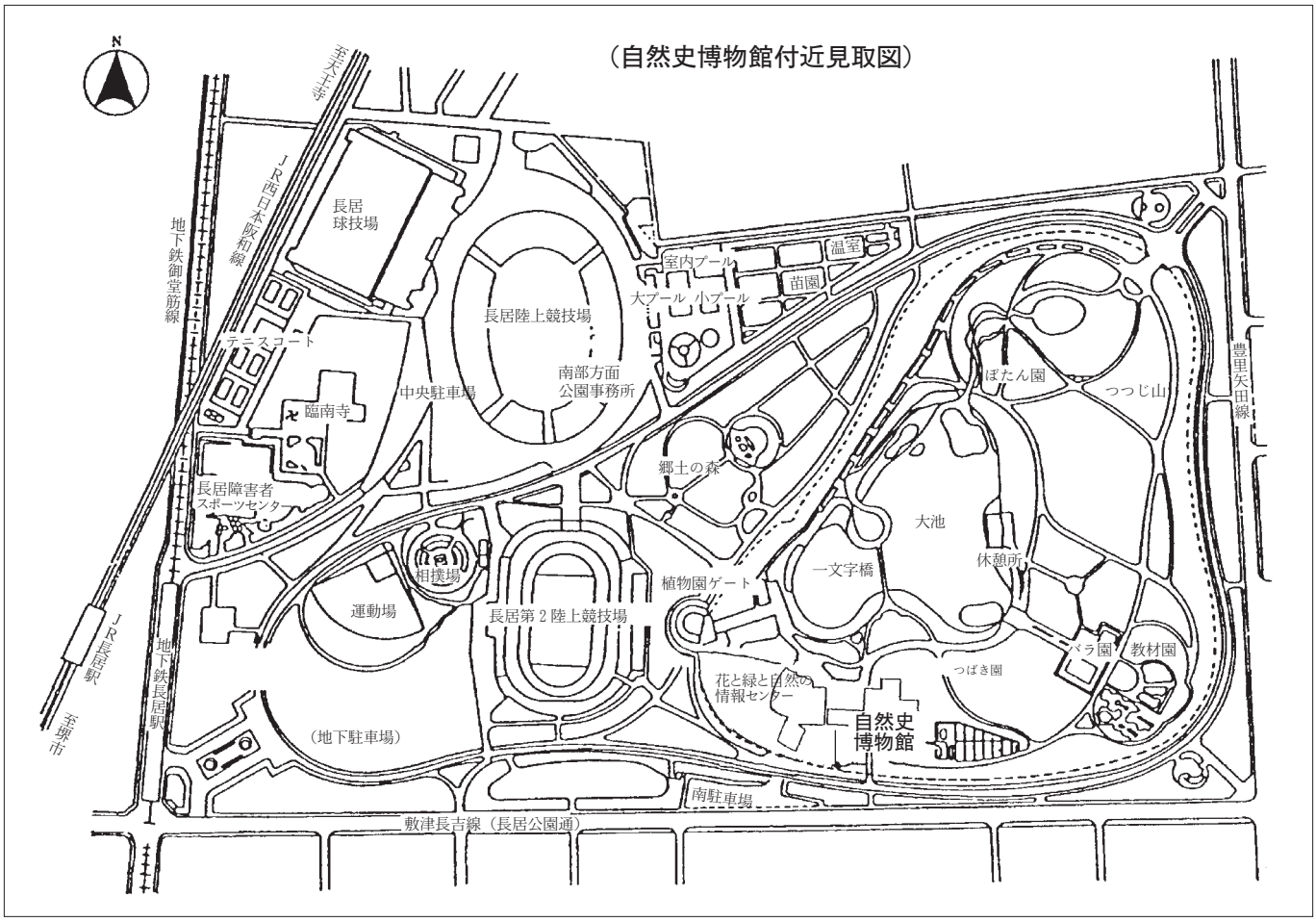
			（天井の高さ）
（展示用施設）	計	1,403.76㎡	
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
（研究用施設）	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場（１）		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場（２）		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室（１）		36.80㎡	4.00m
前室（２）		16.20㎡	4.00m
（普及教育用施設）	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
（管理用施設）	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
ＥＶ機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
（共通部分）	計	431.30㎡	
地下１階廊下		28.74㎡	3.00m
１階廊下		48.30㎡	3.00m
１階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
２階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
プロムナード		28.00㎡	5.00m
２階便所		57.02㎡	2.50m
ＥＶ室		47.52㎡	2.90m
トラックヤード		88.13㎡	
階　段		103.18㎡	
	総計	5,000.00㎡	

■　**階数別面積**

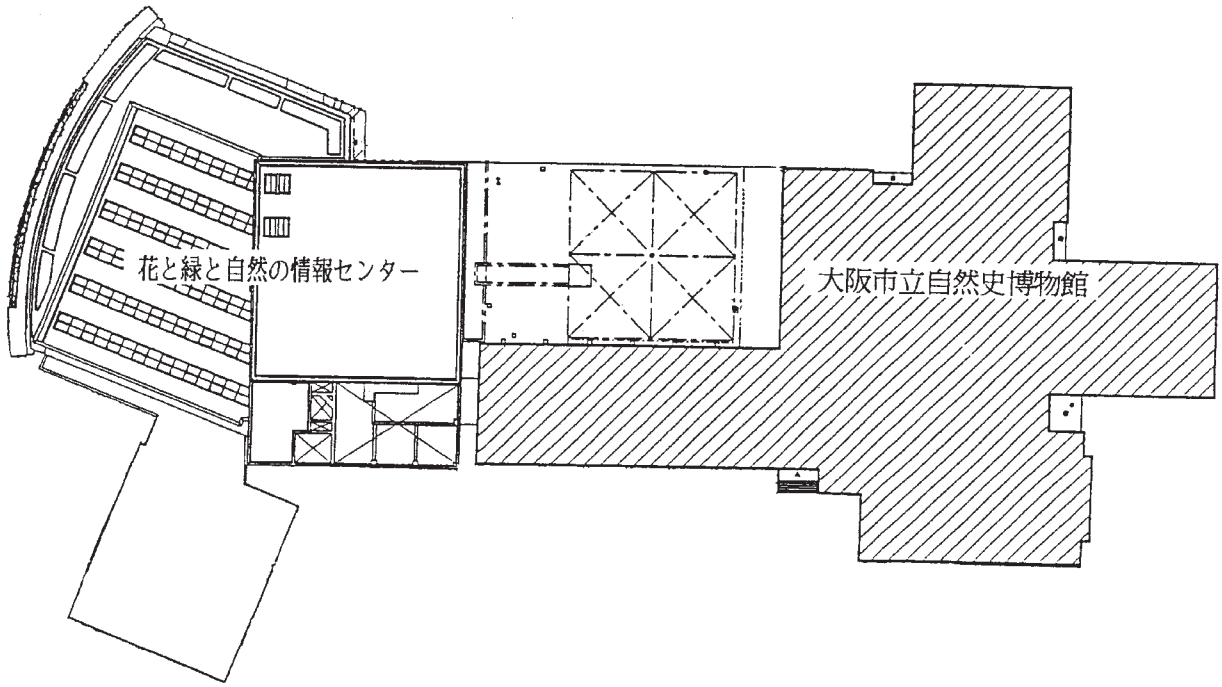
地階……2,754.07㎡
１階……1,203.81㎡
２階……　993.04㎡
３階……　　49.08㎡

■　**工　　期**　平成10年12月～平成13年３月
■　**総事業費**　41億6,665万円
（建設工事費）　24億4,558万円
（設備工事費）　11億9,650万円
（設計監督委託料）　5,751万円
（外溝工事費他）　4億6,706万円
■　**起債等**
・起　債　34億7,477万3千円
・雑収（宝くじ協会）　3億6,001万7千円

（自然史博物館付近見取図）



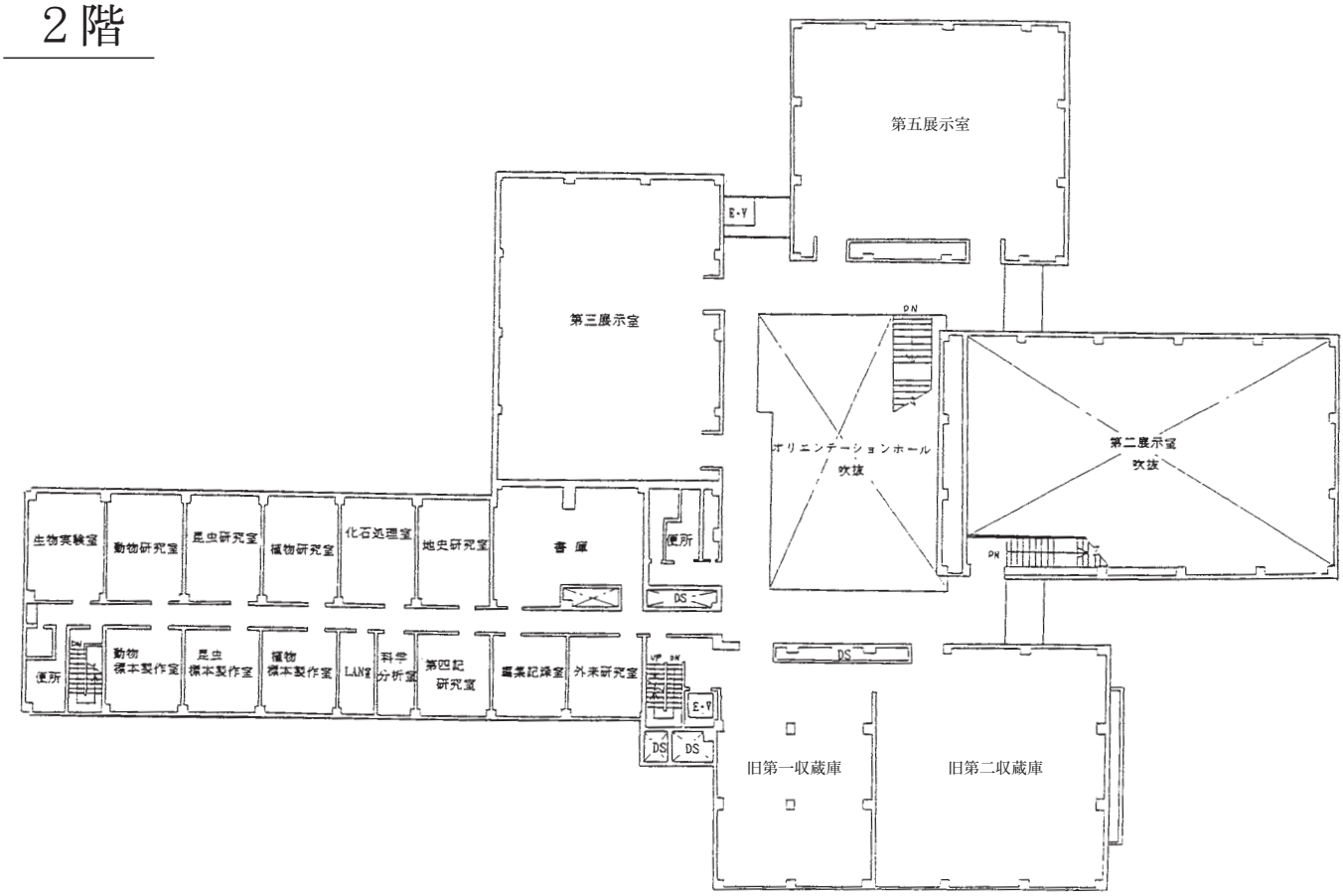
大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター



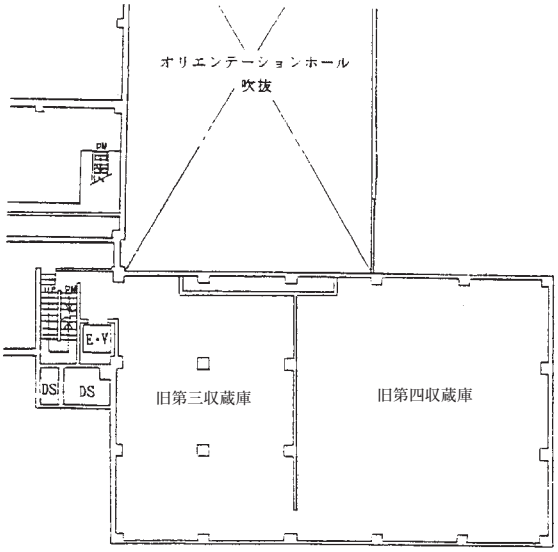
1階

（自然史博物館本館）

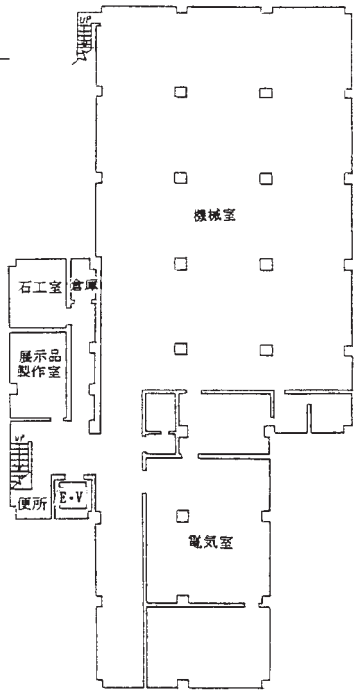
2階



3階

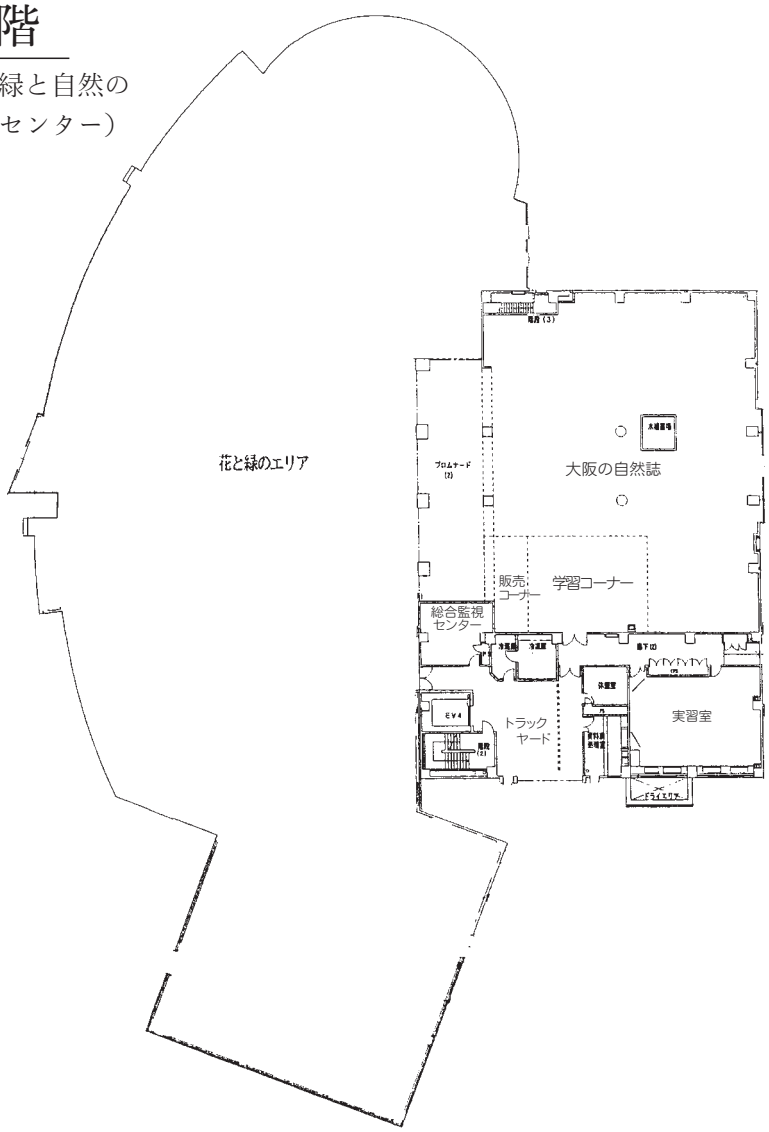


地下

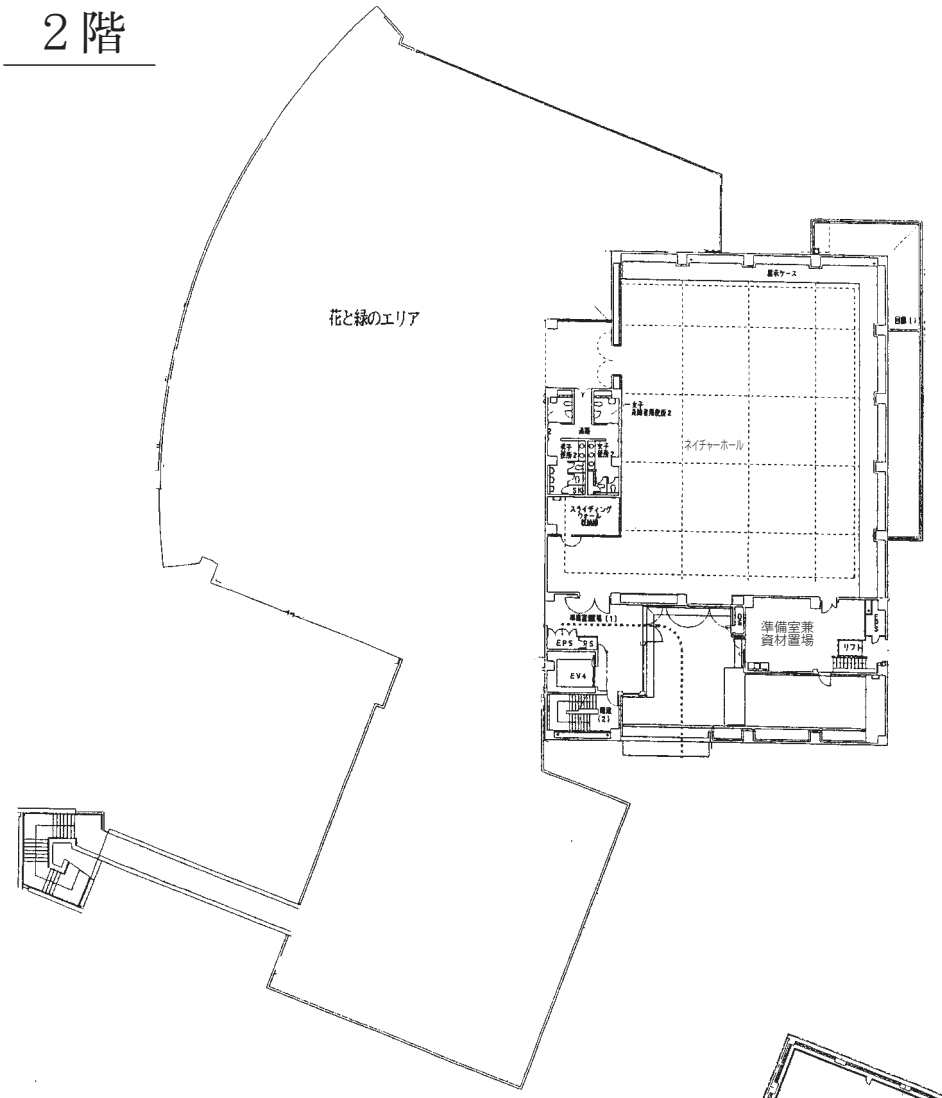


1階

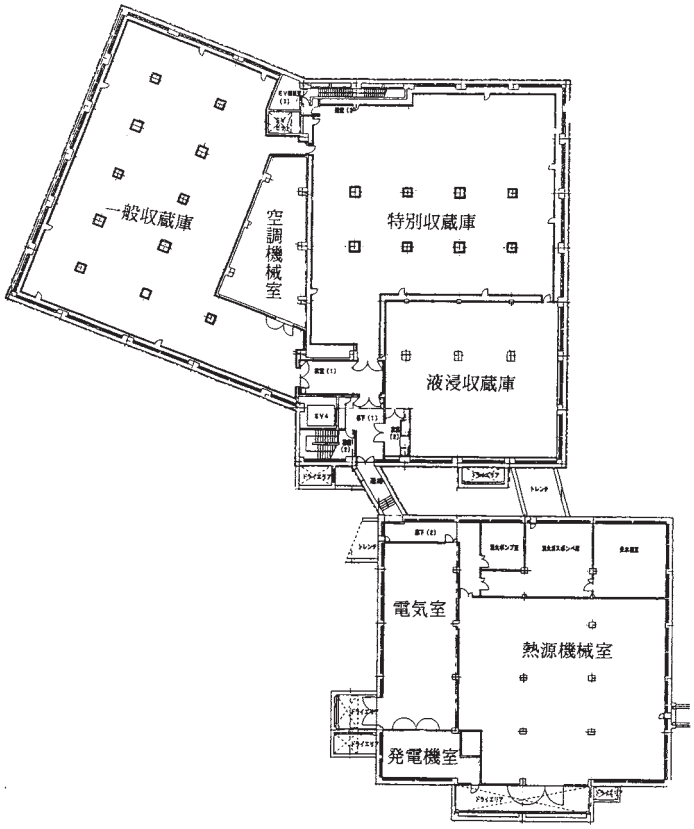
（花と緑と自然の
情報センター）



2階


花と緑のエリア
ネイチャーホール
準備室兼
資材置場
EV4
EPS

地下


一般収蔵庫
空調機械室
特別収蔵庫
液浸収蔵庫
電気室
熱源機械室
発電機室

○　大阪市立自然史博物館条例

制　　定　昭49．4．1
最近改正　平21．11．26

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設置）
第１条　大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。
（目的）
第２条　博物館は、自然史に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。
（事業）
第3条　博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
(1) 自然史に関する実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
(2) 自然史に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと
(3) 自然史に関する展覧会、講習会、実習会、研究集会等を開催すること
(4) 博物館資料に関する同定及び指導を行うこと
(5) 市民の生涯学習の機会を提供すること
(6) 博物館資料を貸し出し、及び交換すること
(7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
(8) その他教育委員会が必要と認める事業
（博物館資料の寄贈又は寄託）
第４条　博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。
（休館日）
第５条　博物館の休館日は、次のとおりとする。
(1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
(2) 12月28日から翌年１月４日まで
2　前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
3　教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。
（供用時間）
第６条　博物館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。ただし、11月１日から翌年２月末日までの期間については、午前９時30分から午後４時30分までとする。
2　前条第２項及び第３項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第２項中「前項」とあるのは「第６条第１項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第６条第２項の規定により読み替えられた第５条第２項」と読み替えるものとする。
（使用の許可）
第７条　別表第１に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
（使用許可の制限）
第８条　次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。
(1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
(2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
(3) 管理上支障があるとき
(4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第77号）第２条第２号に規定する暴力団の利益になるとき
(5) その他不適当と認めるとき
（使用許可の取消し等）
第９条　次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。
(1) 偽りその他不正の手段により第７条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
(2) 前条各号に定める事由が発生したとき
(3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき
（意見の聴取）
第10条　指定管理者は、必要があると認めるときは、第８条第４号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。
2　教育委員会は、前項の規定による求めがあったと

きは、第８条第４号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

（特別研究の許可）

第11条　博物館資料について、特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（貸出しの許可）

第12条　博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（入館の制限）

第13条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

(1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者

(2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者

(3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者

(4) 管理上必要な指示に従わない者

(5) その他管理上支障があると認める者

（利用料金）

第14条　教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2　博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第１項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3　利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

(1) 観覧料（特別の展示に係るものを除く。）１人１回につき別表第２に掲げる金額

(2) 特別の展示に係る観覧料　特別の展示ごとに教育委員会が定める額

(3) 貸出料　その都度教育委員会が定める額

(4) 施設使用料　別表第１に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める額）

4　教育委員会は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

5　指定管理者は、教育委員会規則で定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

6　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(1) 災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき

(2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき

(3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

（管理の代行）

第15条　博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

（指定の申請）

第16条　教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2　前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

（欠格条項）

第17条　次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

(1) 破産者で復権を得ないもの

(2) 法第244条の２第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から２年を経過しないもの

(3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうち、次のいずれかに該当する者があるもの

ア　第１号に該当する者

イ　禁錮に以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から２年を経過しない者
ウ　公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から２年を経過しない者

（指定管理予定者の選定）

第18条　教育委員会は、第16条第２項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

(1) 住民の平等な利用が確保されること
(2) 第２条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
(3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
(4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

（指定管理者の指定等の公告）

第19条　教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の２第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

（業務の範囲）

第20条　指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

(1) 第３条の各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
(2) 建物及び設備の維持保全に関すること
(3) その他博物館の管理に関すること

（施行の細目）

第21条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則（昭和49年４月２日施行、告示第120号）
この条例の施行期日は、市長が定める。

附　則（昭和51年４月１日条例第61号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（昭和55年11月27日条例第48号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（昭和56年４月１日条例第53号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（昭和61年４月１日条例第50号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成４年４月１日条例第58号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成７年３月16日条例第40号）
この条例は、平成７年５月１日から施行する。

附　則（平成13年４月１日条例第62号、平成13年４月27日施行、告示第491号）
この条例の施行期日は、市長が定める。

附　則（平成17年９月22日条例第109号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年４月１日施行、告示第343号）
この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第15条の次に６条を加える改正規定（第17条から第19条まで及び第20条前段に係る部分に限る。）は、公布の日から施行する。

附　則（平成19年12月28日条例第106号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成21年11月26日条例第130号）

1　この条例は、平成22年４月１日から施行する。ただし、第７条中第３号の次に１号を加える改正規定及び第９条の次に３条を加える改正規定（第10条に係る部分に限る。）は、平成22年１月１日から施行する。

2　この条例による改正後の大阪市立自然史博物館条例（以下「改正後の条例」という。）第14条第３項の規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、同項及び改正後の条例第14条第４項の規定の例により行うことができる。

別表第１（第７条、第14条関係）

区　　分	施設使用料
特別展示室	１室１日につき　32,000円
講　　堂	１室１日につき　17,000円

別表第２（第14条関係）

区　　分	観覧料
高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

○　大阪市立自然史博物館条例施行規則

制　　定　平成18年３月31日
最近改正　平成22年３月26日

大阪市立自然史博物館規則（昭和49年大阪市教育委員会規則第12号）を次のように改正する。

（趣旨）

第１条　この規則は、大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（博物館資料の寄贈等の申出）

第２条　条例第４条の規定により大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）に条例第３条第１号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

（寄託資料の取扱い）

第３条　寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

２　寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

（利用料金の納付時期）

第４条　条例第14条第１項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第５条第２項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第５条　条例第14条第３項の教育委員会規則で定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

（利用料金の減額又は免除）

第６条　条例第14条第５項の規定による利用料金の減免又は免除は、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者がこれを行うことができる。

２　利用料金の減額及び免除は、次のとおりとする。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料について次に掲げる額を減額する。

ア　30人以上50人未満の団体　観覧料の１割

イ　50人以上100人未満の団体　観覧料の２割

ウ　100人以上の団体　観覧料の３割

(2) 博物館の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(3) 前２号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者は利用料金を減額又は免除することができる。

（指定申請の方法）

第７条　条例第16条第１項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

２　前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあっては、これらに相当する書類）

(2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書

(3) 条例第16条第２項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前３事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあっては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあっては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあっては、これに相当する書類）とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあっては、これらに相当する書類）

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第８条　教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第９条　地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第７項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

(1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
(2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
(3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
(4) 博物館の利用者数その他の利用状況
(5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
(6) その他教育委員会が必要と認める事項

2　指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあっては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第10条　博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第11条　市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助施行させることとした場合においては、第6条及び第12条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第12条　この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附　則

1　この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2　大阪市立自然史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第27号）は、廃止する。

附　則（平成22年3月26日（教）規則第12号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

区分		使用料		
		午前	午後	全日
特別展示室	冷房設備			16,000円
	暖房設備			16,000円
講堂	冷房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1式　午前、午後各1回につき		1,800円
	マイク	1本　午前、午後各1回につき		500円
	ワイヤレスマイク	1本　午前、午後各1回につき		1,100円
	テープレコーダー	1台　午前、午後各1回につき		900円
	スライド映写機（スクリーン付）	1台　午前、午後各1回につき		1,300円
	16ミリ映写機（スクリーン付）	1台　午前、午後各1回につき		4,200円
	ビデオ装置	1式　午前、午後各1回につき		2,200円
	液晶プロジェクター（スクリーン付）	1台　午前、午後各1回につき		1,900円

備考　この表中「午前」とは午前9時30分から正午までをいい、「午後」とは午後1時から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいい、「全日」とは午前9時30分から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいう。

○　大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制　　定　昭和49年４月１日
最近改正　平成22年４月１日

（目的）

第１条　この要綱は大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市教育委員会条例第39号。以下「条例」という。）第14条の規定による大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の観覧料、特別の展示に係る観覧料、貸出料及び使用料の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第２条　保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校（以下「学校園等」という。）の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

２　前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会（以下「教育委員会」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

（1）入場の日時
（2）学校園等の名称、住所及び代表者氏名
（3）入場者の予定人員
（4）引率責任者の氏名
（5）その他教育委員会が必要と認める事項

（社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

第３条　次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者１名につき１名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

（1）生活保護法（昭和25年法律第144号）
（2）児童福祉法（昭和22年法律第164号）
（3）身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
（4）知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
（5）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
（6）老人福祉法（昭和38年法律第133号）
（7）障害者自立支援法（平成17年法律第123号）

２　前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

（1）入場の日時
（2）社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
（3）施設の設置根拠となる法律の名称
（4）入場者の予定人員
（5）引率責任者の氏名
（6）その他教育委員会が必要と認める事項

３　次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者１名につき１名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

（1）第１項第３号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
（2）第１項第５号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
（3）知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
（4）原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成６年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
（5）戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳

（大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料）

第４条　大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

（大阪市施策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例）

第５条　大阪市が発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

（1）民生委員・児童委員特別入場券
（2）青少年指導員証、青少年福祉委員証
（3）地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
（4）生涯学習推進員証
（5）大阪市立ミュージアム御招待証（ふるさと納税寄付者）
（6）成人の日記念事業施設招待券
（7）博物館・美術館・特別入場施設案内＆パスの入場券（（財）大阪国際交流センター発行）

２　大阪市が発行する以下のものを所持している者は、特別の展示に係る観覧料を免除する。

（1）民生委員・児童委員特別入場券
（2）青少年指導員証、青少年福祉委員証
（3）地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
（4）生涯学習推進員証
（5）博物館・美術館・特別入場施設案内＆パスの入場券（（財）大阪国際交流センター発行）

ただし、特別の展示に係る観覧料のうち博物館と

他者との共催で特別な展示を行う場合は除く。

第6条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除することがある。

(1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
(2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
(3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2　前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

(1) 入場の日時
(2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
(3) 視察の目的
(4) 入場者の予定人員
(5) 視察する者の代表者の氏名
(6) その他教育委員会が必要と認める事項

（貸出料）

第7条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、館蔵品等の貸出料を免除することがある。

(1) 博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設及び博物館類似施設に貸し出すとき
(2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関係することを目的とするとき
(3) 学校の教育又は研究所の研究に使用することを目的とするとき
(4) 報告書又は学会誌等において学術調査又は研究の成果を公表することを目的として使用するとき
(5) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2　前項の貸出料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

(1) 博物館資料の名称
(2) 申請者の氏名及び住所（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
(3) 使用の目的
(4) 貸出期間
(5) その他教育委員会が必要と認める事項

（使用料）

第8条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則別表第1及び規則別表2に規定する使用料を減額又は免除することがある。

(1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
(2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき
(3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき
(4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2　前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

(1) 使用の日時
(2) 申請者の氏名及び住所（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
(3) 使用の目的
(4) 使用する施設及び附属設備
(5) 入館者の予定人員
(6) その他教育委員会が必要と認める事項

附　則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附　則

この要綱は、平成18年10月1日から施行する。

附　則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

自然史博物館に団体入館の時に入口で渡してください　　様式 1

自然史博物館　使用欄						
決裁	課長		主査		係員	

障害者・中学生以下の学校団体等引率者用

大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書

平成　年　月　日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 校 園 名
（団体名）
校園長名
所 在 地
電　話

次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。〔印不要〕

目 的	
日 時	年　月　日（　）午前・午後　時　分から
引率責任者氏名	
引率者（減免）人数	名
生徒・園児・障害者・他人数（　学年）	名
合計人数	名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第6条及び同規則第9条による。

様式 2

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成　年　日

大阪市教育委員会教育長殿

申請者　団 体 名
代表者名
住　所
電　話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成　年　月（　曜日）	使用 午前 午後　時　分～午前 午後　時　分	
使用目的			
日 時		参加人員　人	
種別	数	量	
種別	午前	午後	全日
講堂			
冷房設備			
暖房設備			
拡声装置			
マイク			
ワイヤレスマイク			
スライド映写機			
16ミリ映写機			
ビデオ装置			

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項
使用時間
午前・・・午前9時30分～正午
午後・・・午後1時～午後4時30分
全日・・・午前9時30分～午後4時30分
（準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます）

自然史博物館　使用欄						
決裁	課長		主査		係員	

○　博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館
制定　平成７年２月１日
改定　平成13年３月10日

（目　的）

1　この運用方針は、博物館法施行規則第１条の規定に基づく、大学からの博物館実習生の受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

（受入の規制）

2　受入れの時期は夏期（７月後半～８月末）又は秋期（10月初～11月末）の期間中とし、１人当りの実習日数は５以内で、当館が指定する。

3　受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、１大学については５名以内とする。

4　受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学又は地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。

5　実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

（受入れの願書）

6　博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係又は博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期及び希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の４月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受付けない。

（受入れの諾否）

7　当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、５月中に諾否を回答する。

（その他）

8　大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室又は学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

※各年度における実習日程については、当該年度４月までに、ホームページ上に掲載する。

○　建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

大阪市立自然史博物館
制　　定　昭51. 12.
改　　正　昭54.　7.
最近改正　昭62. 12.

（目的）

1　この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

（撮影等の規制）

2　個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。

3　純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。
　ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

（撮影等の許可願）

4　前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

（許可条件）

5　前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

(1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
(2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
(3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
(4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
(5) その他詳細については、当館と打ち合せすること。

（その他）

6　当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	管理課長	庶務係長	係　員
年			
月	学芸課長	主任学芸員	学 芸 員
日			

写真・テレビ撮影等許可願

平成　年　月　日

大阪市立自然史博物館長様

所　在　地
会社・団体名
代表者氏名印
（担 当 者:　　）
（電話番号:　　）

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いします。

日　　時	平成　年　月　日（　）　時　分～　時　分
目　　的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	
（テレビの場合） 放 映 日 時 番 組 名 タ イ ト ル （写真の場合） 掲 載 紙 名 記 事 タ イ ト ル 著 者 名 発 行 者 名 発 行 年 月 日	

写真・テレビ撮影等許可書

様

大阪市立自然史博物館
館 長

平成　年　月　日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。

日　　時	平成　年　月　日（　）　時　分～　時　分
目　　的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

（許可条件）

(1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。
(2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願いの事項に限ること。
(3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
(4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
(5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

○　外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制定　平成12年４月１日

第１条（目　的）

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を　定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会　議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第２条（定　義）

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究　を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第３条（期　間）

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年４月１日から翌年３月31日までの１年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第４条（手続き）

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用しようとする標本又は設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式１）に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式２、大学生・大学院生は推薦書１通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。（様式３）。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。（外来研究員については前年度２月15日）。

第５条（許　諾）

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第６条（経　費）

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第７条（報　告）

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第８条（成　果）

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第９条（変更・中止）

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条（資格の取消し）

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式1

No.

大阪市立自然史博物館　研究設備・機器、収蔵資料

一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利用日	平成　年　月　日		
目的			
利用する設備・機器、収蔵資料			
利用者	氏名	所属または住所	電話連絡先
担当学芸員名			

決裁	館長	副館長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係員	学芸員

様式2

大阪市立自然史博物館　長期利用申請書

平成　年　月　日

大阪市立自然史博物館長　様

（所属機関の長または指導教官）
所属機関
所在地
電話
職名
氏名　印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員　・　研究生　・　共同研究員　（○で囲む）
研究者	所属部局（教室）、職名（学生）、電話連絡先
	氏名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、収蔵資料	

様式3

大阪市立自然史博物館　長期利用申請書

平成　年　月　日

大阪市立自然史博物館長　様

（本人）
住所
電話
氏名　印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員　・　研究生　・　共同研究員　（○で囲む）
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、収蔵資料	